

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行

第3回フォーラム研究会

逐語録

(木村) では、第3回フォーラム研究会を始めます。

まずは資料の確認をしていきたいと思います。最初は議事次第です(F3-0)。第2回フォーラム研究会の議事録案がF3-1です。これは昨日ようやく、すみません、遅れましたけれども、メールを送らせていただいています。「第2回フォーラムに関するアンケート(自由回答)」がF3-2です。第3回フォーラムスケジュール表がF3-3です。

ここからがフォーラムのときに配る資料です。まだ案ですが、第3回フォーラムと書いてある簡単なスケジュール表がF3-4です。第2回のフォーラムの付箋をまとめたものが、ABCそれぞれあります。これはF3-5-1～F3-5-3にしておいてください。それから、第2回フォーラムの記録があります。全体共有に関する部分です。これをF3-6にしてください。皆さんにはお知らせしていませんけれども、もうホームページに第2回の記録はアップしてありますので、興味があればご覧ください。「ブレインストーミングのやり方」がF3-7です。「グループワークの進め方」がF3-8です。第3回フォーラムに関するアンケートがF3-9になります。最後が、「第4回フォーラムにむけて」という資料です(F3-10)。いろいろ資料がありますけれども、よろしいでしょうか。

今日の議題は、まずは議事録確認を簡単に済ませます。次に、前回のフォーラムの反省です。前回、フォーラムが終わった後に、1時間程度、皆の中で意見共有しましたので、今日はどちらかといえばアンケートに関してのお話と、そこから気付いたお話を少ししていただければと思います。

その後、第3回のフォーラムについて、案を示して、ディスカッションをしたいと思っています。

あと、フォーラムが5回終わった後にアンケートを実施するわけですが、それについても少しとっかかりの議論に時間を使いたいと思っています。

その他のところは、最後に確認をさせていただきます。

0. 議事録確認

(木村) では、まずは議事録確認です。F3-1をご覧ください。これは昨日メールをお送りしております。

基本的には、第1回の反省と、それを受けて第2回の計画を話し合ったということです。

特に問題はないと思いますけれども、これは各自で読んで、何かお気づきの点があればお知らせください。

1. 第2回フォーラムの反省

(木村) 次は第2回フォーラムの反省ということで、アンケートを見ていただければと思います。

あ、Q8を変えるのを忘れてたな。第2回フォーラムに関するアンケートがありますね。Q1、Q2、Q3、Q4、Q8がありますけれども、Q8は今回のものに変更するのを忘れていました。これは前回の回答です。なので、Q8は見ないでください。

Q1からQ4を見る限り、運営上ここが変だというような指摘はなかったのですね。時間が足りないという指摘が多かったのですが、あとは何もなく、割と良かったという形で意見が出てきていると思います。

—— 「不安でいたい大人」というのはどういう意味ですか？

(木村) 不安でいたいために、不安な材料を選んで、自分を不安にしていくと。確証バイアスっていうか。

—— 市民に多いです。

(木村) 不安でいたいので、不安な材料を自分から選好して入手して、より不安になることで自分を落ち着けるということです。不安であることに、自分の安定感を求めている人たち。

—— それを学会員が話したということですか？

(木村) 他の人がそう言ったのを学会員が聞いて、なるほどなと思った、ということです。

—— 何か、そういうことを書いてある本でもあるのかな。

(木村) いや、たぶん、普通に意見として言ったんだと思います。

—— そうです。だからインターネットの非常に過激な悪い情報ばかりを拾うのですよ。

安心できる情報を探すんじゃなくて。

(木村) 学術的にとか、そういうところで聞いたからではなくて。

—— 一般の人は、不安なデータを集めることによって、不安になりたいのですかね？

—— 「不安になりたい」のではなくて、「不安でいたい」のだと思います。

(木村) 不安でいることで、例えば、反対していることに理由を与えている。

—— そうです。理由です。それが自分の物事の判断基準になるわけです。

—— ああ、そうか。こういう人も不安に思っているから、私の考えは妥当だ、というふうに。

—— それとか、だから政府のやっていることは間違っている、とか。

—— ものすごく含蓄のある言葉ですよ。

(木村) こういう言葉が割と出てくるようになってきたなという感じですね。

土田先生、すみません、私 Q8 は見てすらいなかったのですが…。

(土田) パソコン内にはありますけど。

(木村) 指摘しておいたほうがいいものがあれば、教えていただければと思います。

(土田) Q8 について、口頭で申し上げますか。

まず市民のほうから。新しい発見がありました。もっと時間がほしいです。世代の違う人、年上の人のお話が聞けてよかったです。そういった意見が大部分なのですが、1 人だけ、極端に言うと原子力肯定側の目線で話されている気がしました、ということで、フォーラム自体が肯定側に偏っているという印象を述べている人が 1 人いらっしゃいます。

専門家のほうですけれども、お菓子がおいしいものがほしい。

(木村) それは…。それ以外は？

(土田) それ以外は、まあ、良かったんじゃないかということだけです。ただ、専門家

の中でも、グループワークが複雑で分かりにくかったですという人はいます。もちろん、マネジメントが良くて楽しませてもらいました、という意見もあるのですが。

(木村) ありがとうございます。ということで、概ね第2回は好評だったということですが、やはり、少し原子力肯定側で話されているという雰囲気はあるようです。それは仕方がないのでしょうか。

(土田) それは、我々自体を自己反省することですけれども、たぶん、世の中で我々の活動を位置づけていったら、肯定側のほうに落ちるということですね。どこが中点かというのは非常に難しいのですが、多数決で決めていったら、たぶん我々は肯定派のグループのほうに落ちるのだと。

(木村) 意図としては、公正なプロセスでやっていこうとは思っているのですが、どうしても仕方がないですね。

(土田) 開き直れば良いと思います。元々、原子力学会を土台にして行われているフォーラムですから、原子力学会が見る中立というのはこういうものなんだ、と押し通せばいいのではないですか。今更ガタガタ動いたら、かえっておかしなことになると思います。

—— ただ、これは市民から出てきた意見ですね。市民の中で、否定的な意見を面と向かって言にくいみたいなことをどこかで感じている人がいるのかもしれないと思います。

(土田) それはその通りだと思います。

—— そういうことも言ってもいいということ伝えるために、何かしてあげるのはあってもいいかなと思います。

—— そうですね。そういう雰囲気を感じて、しゃべりづらいという何かのプレッシャー的なものを感じているとすれば、そういうことはどんどんおっしゃってくださいと。

(土田) ただ、そのためには、先ほど出た「不安でいたい大人」、これを否定的に捉えているという雰囲気を払拭しないと行かないですね。不安でいたい大人も素晴らしいことなんだと皆が受け止めてくれるようにならないと、たぶん、話せる雰囲気じゃないと言われる。難しいですけど。

—— 難しいですね。不安を払拭するような話をリスクコミュニケーションはついやるわ

けだけど、そうすると、不安でいたい人に対しては、

(土田) それを助長するような水を向けてやると。

(木村) 結局のところ、前回、エンパシーという話をしましたよね。ある意味で、不安でいたいというスタンスもその人にとっての真実だということで、「尊重」して受け取るということを理解していかないと、何もコミュニケーションが生まれませんよと。それが本当はフォーラムの意図なので。そういう意味で、私は、肯定側で話されている雰囲気を感じた、というところは注意したいところなのですよ。

—— グループによっても全然違うと思うのですけれども、おおむね専門家の方は自信を持ってお話になったり、まだいくぶん上から目線の発言が多くて。

市民の方は、そもそも原子力について知識もないし、事前に勉強してきたけれども訳が分からないんだよみたいな方も結構多かったじゃないですか。だから発言にも自信がないですし、何かとんちんかんなことを言ったらと嫌だなとか。それから、人前で発言することに慣れていない方もいると思いますし。そういう方がだんだん慣れてきて、前回第 2 回で、やっと少し意見を言える状態になってきたのではないかなと思うのですね。

専門家の人は、はっきりものが言えるし、人前で話すのも慣れていたり、人に教えることも慣れている人が多いと思うので、何かそういう意見ばかりが堂々と語られるところに、偏りがあると思ったんじゃないかなと思うのですけど。

でも、このアンケートを見ると、学会員の方も結構気づいてきたかなという感じがありますよね。コミュニケーションってどういうものか、自分がどのように見られているのか、自分の意見がどのように受け止められるのか。気付きが出てきているので、次がすごく楽しみです。

(木村) 本当は、周辺の人に分かってきても、例えば声の大きな方がいつまでも気付かなかつたりすると、全体が崩れちゃうこともありうるのですよね。そこはどうかかなというところもなきにしもあらずですが、少なくとも全体の雰囲気としては、良くなりつつあるかなと思っています。

ということで、今言ったような話を踏まえながら、次回以降を考えていこうと思います。実は、第 4 回のお話も念頭に置きながら第 3 回を見ていかなければいけないと思っていますので、次の議題に移りながら、またここに立ち戻りながら、話していきたいと思っています。

2. 第 3 回フォーラムについて

(木村) 次は、第3回フォーラムについてです。まず、スケジュール表(F3-3)を見ていただければと思います。現時点で決めていることなので、これからいろいろ変わる可能性があるのですが、こんな感じで考えていますというのをお知らせして、皆さんからご意見をいただきたいと思っています。

まず、11時に集合して、最終打ち合わせは30分取っています。前は1時間かかりましたけれども、今回はこのタイミングで(研究会が)できていますので、30分程度でできるんじゃないかなと。前は1時間かかってしまったので、ご飯を食べている暇もあまりなくて、皆さん大変だったと思うのですが、今日変更した部分を確認すれば、どうにかなるかなと思っています。

そこから1時間で会場準備をして、12時半から受付開始ということになります。

13時からフォーラム開始です。全体の司会進行は総合ファシリテーターにお任せをするということ。

【イントロダクション】。前回の振り返りを話してもらおうというのは、思った以上に効果的だと思いましたので、今回も最初にやりたいと思います。

その後、「前回の振り返り」ということで、私がお話をしたいと思います。第1回は、意見をバーッと行ってもらって構造化しなかったのが、私の感覚で構造化しましたと言ってお話をしましたが、今回は、それぞれのグループでかなり構造化をしてお話をされていて、分かりやすい状況になっています。F3-6をご覧ください。これは、グループワーク1が終わった後の全体共有の部分の記録になりますが、これを読むと、各グループで何を考えているのかがシンプルにまとまっていますので、私のほうで手を加えるよりは、皆さんがこういう感じでまとめられていましたね、ということを確認するというスタイルでやってしまいたいと思っています。F3-6をそのまま持っていくことはしませんけれども、これをまとめるような形でやるつもりです。

それなので、付箋のまとめもF3-5-1からF3-5-3があると思いますけれども、ほぼこのまま持っていくぐらいの感じで、皆さんに、前回の話の流れを思い出してくださいという形で持っていこうかなと思っています。

それから、ここにはグループワーク1の話しか出ていませんので、プラスアルファで、第2回の最後には第3回のテーマについて議論してもらって、関心の喚起のためにどうしたらいいのかというテーマが選ばれました。その辺を最後にさらっとおさらいするというような形で、10分くらいで前回のさらいをすればいいかなと思っています。それが第3回の導入にもなるということを考えているということです。

その後、今回も、「グループワークの進め方」を5分取っております。前はここが15分かかったのですが、今回はブレインストーミングのやり方はさらっと言うだけなので、「今日のフォーラムで気をつけること」だけをもう一度確認をして、さらにグループワーク1の進め方の説明にいくと思いますので、5分で済むかなと思っています。

今回は「グループワーク1」を45分取りました。また3グループに分かれて行きます。

10分前のアナウンスだと少し最後にゴタゴタするというので、15分前にアナウンス。かつ、5分間の余裕を見えています。14時15分で終わるというスケジュールになっていますけれども、5分間余裕を見て、14時20分から全体共有という形にしているということです。

次の「全体共有1」も、この前は次のセッションみたいにしたのですが、今回はグループワークの直後に全体共有をやるようなスタイルにしております。各グループ5分の発表。前回、総合ファシリテーターが少しフォローしていただきましたけれども、そういうのは良かったかなと思います。やはり、発表者だけが話して終わってしまうと、何か言い足りないという人たちがいると思いますので、そういうときには同じグループの他の人からもちゃんと意見を言っていただくというような機会を入れて、お話を進めると。15分取っていますけれども、5分の余裕を取ってあって、次が14時40分から始まるというようなスタイルになっております。

で、14時40分から5分間で、「この後の進め方」。質問への回答をグループワークでやると、思った以上に議論が深まるという意見もありましたので、今回もそれを採用しておきたいと思います。まず、質問作りをやるということ。前回、休憩がなかったということもあって、今回は質問作りと休憩をくっつけてやってみたらどうかということ、15分間で質問作りと休憩の時間を取ることにしたいと思います。前回のやり方がある程度踏襲されていますので、割と質問作りに時間がかからないで済むんじゃないかなと予想はしていますので、休憩と組み合わせて15分間取って、15時までがグループワーク1のセッションということで考えております。

まず、一旦ここで切りたいと思います。重要なポイントは、グループワークのテーマです。前回、いわゆるイメージとかモチベーションとか、原子力アレルギーの払拭とか、そういう話について話し合いたいということが得票数が多くて、そこが今回のテーマということになりました。

一方で、先ほどアンケートを見ていただいたように、単に「関心を喚起することがいいんだ」みたいな雰囲気を出すテーマ設定をしてしまうと、肯定への誘導になってしまうのではないかという危機感を持っているところもあります。そこについて、うまくバランスのとれたテーマ設定ができないかなと思っています。

とりあえず、テーマとして、「関心を持って原子力のことを考えられるようになるには、どうしたら良いだろうか？」という案を設定しています。前回の議論を受けるとだいたいこんなイメージなのですが、肯定派の誘導にならないようなテーマ設定をしたい。ということで、皆さんからご意見をいただきたいと思っています。

あと、前回、グループワーク1は同じ45分間でしたが、2問設定していたのですね。そうすると、やはり2問目にほとんど時間が割けなくてバタバタしたということで、今回は1問の設定にしています。

ということで、皆さんからご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

—— その前に、F3-4 の、下から 3 つ目の開始時刻がずれていると思います。

(木村) ああ、本当ですね。15 時に直します。

どうでしょうか、何かいいテーマ設定はありませんか。「アレルギーを払拭するには」というキーワードもあったのですが、それだと、原子力アレルギーを悪いものと決めつけて話しているなと思って。

前は、どうも全体として「原子力ムラが悪いイメージを持たれている」というところからスタートしていたので、では、それを払拭するためにどうしたらいいでしょうかというテーマ設定をしましたけれども、今回は違うのですよね。原子力アレルギーが悪いものだ、というところから発進しているわけではないので。ですから、払拭するというのは良くないと。

ただ、良いイメージにしる、悪いイメージにしる、関心を持って原子力のことを考えないといけないのではないかと、というところは皆の共有ができているのかなと思いましたので、こういうテーマにしたのですが。文章化してみると、関心を持ちなさいみたいな、関心を持つことでどうしたいんですかみたいな、誘導的にとられるなと思って。どういうふうにかきたいのだろうかというものが、私の一番の懸念ですね。

口で説明すればいいのですが、ただ、表題というのは大きな誘導になってしまうので、ここをどうにかしたいというのはあるのですね。

—— 逆に、「なぜ今まで原子力に関心がなかったのだろうか？」かなと思います。

(木村) なるほど。

—— アンケートで、テーマの候補はどんなものが挙がっていたんですか？

(木村) 今回はアンケートではやっていないです。最後に投票して決めました。

—— その投票結果はないのですか？

—— それは出ていないので、今、印刷してきます。

—— それと無関係に考えてもまずいでしょうか。参加者の中から出ていて考えたほうがいいですかね。

(木村) F3-8 を見ていただければと思います。【目的】というところに、前回のまとめと、今回のテーマについて、ざっくりまとめたのですね。

第2回フォーラムでは、「原子カムラ」があまり良いイメージをもたれていない原因を話し合った。その結果、原子力や放射線に危険・怖いというイメージがある、利益に絡んでダーティなイメージがある、そもそもわからないものである、わかりにくい説明や真実を語っていないというような閉鎖性、マスメディアによるイメージの固定化、などが原因として挙げられた。そして、これを払拭するためのキーワードとして、情報や組織の透明性の向上、教育、そして、関心を持って原子力のことを考えること、などが挙げられた。

こういうものの中で、次回はどういうことについて話し合いたいですかと。結果として選ばれたのが、「関心を持って原子力のことを考えること」だったと。ここに焦点を当てて、どうすればこのような状態が作り出せるのかについてアイデアを出したい。と目的を設定しているのですね。

原子カムラの悪いイメージを払拭するためのキーワードとしては、情報の透明性と組織の透明性、これは透明性というキーワードでひとくくりにしちゃっています。あとは教育という話。無関心だねという話。その辺がキーワードとしては出てきているという状況ではあるのですね。

投票で何が書いてあったかというのは、今印刷していただいていますけれども。

—— これは出ていないのかもしれないのだけど、私に関心を持っているのは、一般の人たちが、不透明とか、隠しているとか思っている。では、何を知りたいのかというのを、とにかく全部、考えられるだけ出してみたらどうだろうか。

専門家のほうも、自分たちはこういうことをきちんと説明していなかったと思われることがあったら、それを全部出してみたらどうか。

そういうブレンストーミングは意味がありそうな気がする。不透明とか、隠しているとか、そういうワーディングが目立ったような気がしているので。では、ムラの側から透明性を高くするためには、あるいは隠さないためには、何を情報開示をしたらいいのだろうか。そういうところに結びついていく。そういうネタが出せないかなと。

(木村) ただ、前回、参加者がこれをやりたいと言っているのです。

それは透明性の議論になってしまうのですよね。透明性がトップだったらそういう仕掛けはできたのですけど。

—— 原子力アレルギーは払拭できると思いますか？

(木村) いや、というか、別に払拭すべきものでもないと思うのですよね。

—— なんとなくイメージなのですが、まず、このテーマで意見を出してもらおう。1回出終わった後に、では、これが実際に出てくるようになったら、あなたは変わりますか、み

たいな話を入れるといいのではないですか。

こういうことをやったら変わるのではないか、関心を持てるようになるのではないか、ということで意見を出して、皆で、うん、こういうのをやれば変わるんじゃないか、という意見が出ましたってまとめると、肯定的な感じの雰囲気の間になってしまいますけど。

その後に、では、実際にこういうことをやってみたら、何らかの形で自分が変わりますかと。「挙げてはいたけど、でも、このくらいじゃ自分の関心は高まらないと思う」とか。

—— あなたはそれで変わりますか、っていうのを聞くような感じですよ？

—— そうです。そういうところに入ると、「いや、そうでもないな」という人が出てくるんじゃないかなと。

—— 確かに、このテーマだけだと、理想的な、こうあればいい、こうあればいいっていうような意見ばかりたくさん出る気がするのですよね。理性的に考えて、もっとこうあるべきだ、これが望ましい、っていう意見はたくさん出ると思うけど、実際にあなた自身がそれを受け入れられるかということですよ。

—— このテーマだと、関心を持って原子力のことを考えるべきだよとか、そういう感じがありますよね。だけど、そもそも世の中の人、事故が起こるまでは原子力について無関心だったわけですよ。それは、平穩無事で、大した事故もなくて、自分たちの生活が快適に便利に送っていたので、何も考えなかった。一旦ああいうことが起こったから、初めてそこに関心をいろいろな意味で持ったのだけど、ある意味何も起こらなくて平和で関心もないなら、それは関心がなくてもいいんじゃないかって、そういうひねくれた考えが頭に浮かんだんです。

—— だから、「なぜ今まで関心がなかったのだろうか？」というテーマだったら、そういう意見が当然出てくるかなと思ったのです。今まで考える必要はなかったとか。電気の心配なんかしなかったとか。事故なんてあると思わなかったとか。そういう意見が出てくるのではないかと思うのですよ。

—— だけど、この議論はぐるぐるするのですよね。

—— そうなのです。模造紙が3枚くらいになるんじゃないかなって。

こうだったらいい、こうだったらいいって、ポストイットばかりたくさん出てくるけど、はたしてそれで本当にあなた自身が関心を持てるようになるのかな、そんな気がするのです。

すよね。

—— 国際的な世論調査の比較をしてみると、日本は際立ってサイレントマジョリティーが多いのですよね。まさに今おっしゃった通りで、何がどうなっているか分からないけども、平和な生活が保たれていればいいので、特に原子力に関心をもっているわけじゃありません、という人の比率が際立って多いのが日本の特徴です。

例えば、アメリカや韓国は原子力に対する支持の比率が高いのだけれども、意識を持って支持している人が多いのですね。

それが日本の特徴なので、それはそれでいいのかなと。だけど、あまり関心をもっていない人は、いつでも動く可能性がある。今は、その人たちはほとんどアンチ側に寄っていると。

(土田) よろしいですか。皆様のご議論はその通りだと思うのですがけれども、私は前回出ていなかったのを確認したいのですが、「関心を持ってほしい」、「関心を上げたい」ということですよ。

ただ、フォーラムに参加している人は、関心が高いから来ているのですよね。元々関心の高い人たちが集まっているはずなのですよ。で、なおかつこういう話が出てくるということは、自分以外の人たちの関心を上げたいと言っているのか。それとも、自分の関心をもっと上げたいと言っているのか。どちらに比重があるのでしょうか。

—— 私が見ていた班では、教育の話が出ているというところから考えると、自分以外の人たちにどう伝えるか、ということだと思います。

—— 国民全体とか。

(木村) 今、投票結果を配ってもらいましたが、真ん中の「アレルギー問題を払拭するには」から「原子力に関心を持ってもらうには」という辺りは、要はイメージ戦略みたいなことを皆言っていたのですよ。

(土田) フォーラムで話し合ってもらえばいいことなのですがけれども、ただ、先ほどのサイレントマジョリティーとか、関心なんかないから原子力を受け入れていたんだというような意見はやはりあるわけでして。関心を持ってほしいということの裏に、人によって持っているものが違うと思うのですよ。

関心を持ってもらえば、反対する人が増えるはずだ。関心を持つということは、すなわち、原子力は危ないということを強く意識することであって、関心を持つ人が増えれば増えるほど、原子力がやめられるという形になる。

一方では、関心を持って正しいことを理解してもらえば、原子力を積極的に受け入れてくれるだろうという人もいる。

だから、両方の意図があるということを前提にしないと、少し話が飛ぶかもしれない。

(木村) むしろ、その両方の意図をちゃんと示しておかないと、誘導になってしまうのですよね。だから、どういうテーマ設定にすればいいのか。

—— でも、「関心」といったら、普通は良いイメージではないですか？

(土田) 普通はそうなのですが、福島以前の日本の原発の受容というのは、考えなくてもいいから受容していたというふしが、私にはあるように思います。賛成派というのはサイレントマジョリティーであって、積極的に原子力はいいなとは日本では言いにくいし、言うつもりもない。でも、積極的に反対はしない。止めやしないから、進めたい人がいるならどうぞ進めてください、というのが、福島前の原子力賛成の大多数の声だったと思います。

ただ、福島以後、積極的に止めたいという声が増えた。それを説明するのに、やはり関心を持つ人が増えたからという説明はありうると思うのですね。

私は先ほどの言葉が気に入っちゃったのですが、「不安になりたい大人」にとっては、周りを不安にさせて、反対に持っていきたい。不安にさせるということは、つまり、考えてよということだし、原子力のことをもうちょっと知ってよということ。「知って」というのは「危ないということだけ知って」ということなのですから。結論から言って、関心を持ってほしい、ということに落ち着いてしまう。

(木村) そうなのですよ。「関心」という言葉は、ある意味ではスタンスがフリーな言葉なので。かといって、身近に捉えるとか、そういうことではまた違うと思うのですよね。

(土田) うん、だから、結局どの側面を見たいかなのですよね。同じことを何度も言うようですが。

原子力というのは複雑なものであるから、いろいろな側面があるわけですよ。その全部を見てほしいというのがたぶんこのフォーラムの最終的な目的だと思うのですが、でも今の段階では、参加者に全部の面を見ようという意識はたぶんない。自分にとって心地のいいところだけを見たいし、他の人にもそこを見てほしい。そういう状態だと思うのですよね。だから、関心を持ってもらうということが、全ての面を見るという方向に持っていく形でテーマ設定できるならいいですけど、ただ、それは誘導かなと思いつつ言っていますけど。

—— 肯定的な意見にするための議論になっているのではないか、という指摘があると言っていましたよね。この「関心」という言葉は、今先生がおっしゃったように幅広く取ればいいのですが、そうではなくて、「原子力のいいところを見てください」と取られたら、やはり肯定的に誘導していると指摘をする人が出てくるのではないかと思うのですよ。

(木村) そうなのです。実は、イメージ戦略をやりたいと言う人たちは、むしろ、誘導するための戦略を練りたいと言っている雰囲気なのです。だから、市民の投票が多いのは逆にびっくりなのです。専門家ばかりだったらどうしようと思っていたら、半分以上が市民の票だったので。この場での総意としてはこうなっちゃうのかなというか、逆に言うと、どういう形で反対のほうの正当性を訴えればいいのか分からない場にはなっているのかもしれないですね。

—— 横軸に情報量を取って、縦軸に肯定する比率を取ると、情報が増えていくと、土田先生が言われるように、危ないという情報が先に入ってくるので、否定側に行きますけども、情報量を増やしていくと、それに対する備えもきちんと理解できてくるので、肯定側にだんだん移るのです。情報をそこまで理解すると、反対側じゃなくて、ポジティブ側が変わっていくのです。

(木村) いや、そうとは限らないです。中を分かってくると、逆に、こんな組織には任せられないとなって、反対になってしまう可能性すらあります。

—— いえ、私が言っているのは純技術的な側面だけで。

(土田) おそらく、技術者の方はそうだと思います。

—— 私自身の経験ではそうですよ。

(土田) ええ、おっしゃる通りで、心理学的な議論にもまったく則った、まさにきれいな教科書に書きたいようなご議論なのですが。ただ、別の観点から見ると、今、市民に対してどうはたらきかけるか、という議論になっている気がするのですよ。

でも、専門家にとっては、なぜ市民がこんなに怖がっているのかとか、なぜ市民がこんなに正義と思って反対できるのかというところが理解できないわけでしょう。

そうなのであれば、専門家に理解してもらうために、なぜ反対するのか、なぜ怖いのかというところを、フォーラム丸 1 回くらい使って徹底的に議論してみる、みたいのもいいのかなと思いますけれども。一度、市民から専門家が説得されてみましょう、ぐらいのことをやってもいいんじゃないですか。それで説得されるくらいだったら、大したものじゃ

ないし。

—— 今の話のつながりで言うと、1回は市民が一生懸命、なぜ怖いのかを言って。その次ぐらいに、今度は専門家が専門性の中でどう考えているのかというのを一生懸命言うとか。対でやるのもいいかもしれないですね。

(土田) そうですね。交互にやってみるとか。

(木村) 全体の設計の中ではそういうのはできますけど、今からは無理ですね。

というか、やりたいことがたくさん出ていて、来年度も5回やらないと駄目ですねっていう感じになりそうな気がするんですけど。

—— よろしいですか。今の先生のご意見が出る前に考えていたことなのですが。

前回、「原子力に関心を持つためには」というテーマに対して投票が多いので、次回はそれを話しましょうと言いましたけど、「関心」という言葉が肯定にとられるか、否定にとられるか、その辺をもう少し明確にしておかないと、スタートとして危険だというお話ですよ。

例えば、「原子力を“自分ごと”として考えるには」とかはどうでしょう。自分ごと、自分の課題として考えて、最終的に肯定も、否定も、いろいろなご意見があるみたいなところに持って行って、いろいろな意見を言ってもらう、ということはできるかなと思って聞いていました。

あと、前回のグループワークの発表を聞いていると、教育の話とか、エネルギー全体に対する社会の議論とか関心の薄さとか、教育でもっとエネルギーなり、放射線なり、原子力のことを普段から話していないといけないんじゃないかとか、そういう感じの発表をする班が多かったなという印象があります。

そういう意味で、原子力政策に厳しいご意見でももちろん必要だし。以前、私たちの中では、食事中に原子力のことが語れる社会にするためにワークショップをしようね、とか言い合っていた時期があったのですよ。あまりにもエネルギーや原子力のことを専門家に任せすぎていて、社会がまったく関心を持たないということが、非常に不思議というか、あまりバランスのいい社会ではないのではないかというのがあって。食事中にエネルギーや原子力の話が出るような、そんな社会になるといいね、なんて話をよくしていたのを、今思い出しました。

—— この投票結果を見ると、16枚の付箋の中で、2列目、3列目、それから5列目が今おっしゃったジャンルに入っていて、16分の9、過半数、ものすごい比率ですよ。

(木村) 教育をあえて抜いても、そうなのですよ。

—— しかもその中に、市民の票が 5 枚もある。専門家がそう言うのだったらともかく。これはすごいことですね。

(木村) そうなのですよ。数の論理でやるとこうなるんだなというのは、今回よく分かりました。

—— 根本的にそういう問題をきちんと議論したいと思っている人が多いというのは意外ですね。

—— 前回も、専門家の方で、やはり教育とかそういうことは押し付けにつながるんじゃないかと思って、言うてはいけないと今までは自己規制していたけれども、市民の方と話して、市民の方が教育とかそういうことを積極的に発言されるので驚いた、とおっしゃった方がいらっしやったのですね。

(土田) 少し文学的な表現をしますけど、原子力は「穢れたもの」というイメージがどうしてもあると思うのです。穢れを持っている。そういう穢れたことを口に出してはいけない。今のご発言にもありましたけれども、専門家自身がそう思っている。

今の発言を「穢れ」という形で翻訳すると、原子力は穢れたものだから、そんなに大っぴらに表に出していいものではないと思っていたのに、世間の人たちはそんなに穢れていると思っていなくて、平気で扱っている。というところのギャップだと思うのですよね。

だから、ちょっと遠いやり方かもしれませんが、「原子力はなぜ忌み嫌われるのか？」とか、「原子力はなぜ否定的なイメージしか持てないのか？」とか、そういうところを話し合うというのもひとつかもしれないですね。

有名な議論なので皆さんご存知だと思いますけど、よく原子力と対比されるのが、特に技術者の方が対比するのが、自動車なのです。自動車は、それがあつたために毎年日本だけで何千人も命を落としている。自動車があつたために人生が狂ってしまったという人は、毎年何十万人もいるわけですね。原子力はそんな悪さをしていない。けれども、自動車が穢れているとか、そういうイメージは全くない。なぜなのだろうと話し合うのは、ひとつ面白いかなと思いますね。

—— 「不都合な真実」という本があつて、あの中では、自動車と並んで出てくるのが火力発電所です。全世界で毎年 100 万人オーダーで命を落としているにも関わらず、火力発電所反対なんて運動は起きない。こういう話も出ていますよね。

だけど、そういう切り口にすると、全体の流れとしてはどうなのでしょうかね？

(木村) 今、悩み中です。今のところまだご意見を伺っていない方、何かありませんか。

—— 私は、せっかくこういうキーワードでやりたいというご意見が出たのだから、このままでやってもいいと思います。そのときに、「関心を持つ」ということは、プラスのことだけではなくて、マイナスのこともあって、プラスマイナス両方の関心を持つというテーマで出し合ひましょう、というのをはっきり言ったらいいのではないかと思うのですけど。

—— まったくその通りですね。

—— そういう意味では2つくらい言いたいことがあって。

1つ目、タイトルに関して言うと、「関心」というのはやはり日本語ではいい意味で取られやすいので、「原子力に対して意見を持つにはどうしたらいいか？」とか、そういう感じにすれば、マイナスの意見を持つためにどうすればいいかとか、そういう意見も含まれるのではないかと。

2つ目は、このままだと、「関心を持つことが正しい」という前提の話になるじゃないですか。でも、先ほど話があったように、自動車は安全かみたいなことを教育しなさいみたいな話にはならないわけで。なぜ、関心を持たなければいけないのか。それをどうこのテーマに組み込んでいくのか、あるいは、組み込まないのか、そこは分からないのですけど、私はそこが気持ち悪いです。

(土田) 根本的な話ですね。ただ、一言だけ感想を言うと、私は「関心」という言葉にそんなにポジティブなイメージはありません。なぜかというと、世の中を正すということが一番大事なことだと思っているときには、危ないものを危ないと言うのは正しいことなので。だから、「原子力に関心を持つ」と言うと、「危ないことに関心を持つ」と捉える感性というのはあるだろうと思います。「関心」というとポジティブに誘導している、とは思わなくてもいいのではないかとはいいます。

(木村) 本当ですか？

—— 私は、思う人はいると思うのですよ。

—— 私も。

(木村) 「原子力に関心を持って」といったら、もうポジティブなイメージでしか使われたことがないですから。

—— 正しく理解して、賛成すると。そっちに行かされちゃうのかなって。

—— 恋愛だって、そうじゃないですか。「私に関心を持って」というのは、「私を嫌って」ということでは絶対になくて、「好きになって」という話ですから。

(土田) ちょっと待ってください。原子力に反対する人たちがオルグ活動をやるときに、「関心を持って」とは言わないのですか？

—— 「原子力に反対しよう」と言うと思う。

(土田) ああ、「反対しよう」か。いきなりそこに行くわけですか。

—— もう関心はあるんですよ。

—— 原子力のことだけを話すと、賛成派って言われます。反対ということをはっきり言わないと、「あなたは賛成なのね」って。

—— 最初に、「どっちなの？」って聞かれますよね。

—— そうです。自分は純粋に情報を話しているつもりでも、反対だということをはっきり言わないと、「賛成なのね」って。最終的には評価としてはそうなるみたいです。

(木村) 原子力と関心は、とかくそういうふうになっていると思います。

—— 私は、自分の身近に引き寄せて原子力を捉えようとしたら、やはり怖いものというのが優先するので、反対っていうようなことが出てくるのですけれども、この事故があったから、いろいろな情報がありますよね。それを見ると、自分のことに引き寄せて考えないといけないけれど、社会の中でそれをどうしたらいいのかということ自分で判断したいと思うようになったのですよ。

そうしたときに、関心を持って反対をしているお友達に話を聞くと、反対の基盤になる情報しか来ない。電力のことひとつにしても、足りるって言うし。即刻やめて自然エネルギーにしても足りると言いますし。そうでない違う方に聞くと、費用はこのくらいかかって、足りないよと。その間に電力料金はこれだけ上がるよという情報が来るのですが、どれが正しいか自分でまったく判断できないような状態に陥るのですね。

だから、私としては、関心を持って自分で考えるために、テレビで、こういうことが昔

あったのに、全然世の中に出ていませんでしたね、ということがよくあるじゃないですか。それが正しいかどうかではなくて、こういうこともありますということを、きっちりまとめて出してほしいなと思います。自分で判断できる材料が欲しいなって、最近すごく思いますね。

だから、今まで無関心だったけど、この事故があって関心を持ったときに、何を知りたかったかとか。なぜ関心がなかったかとか。そうやって逆説的に聞いても、いろいろな意見が出てきて、そこから、じゃあどうしたいか、というのが出てくるかもしれないなとは思うのですけど。

(土田) その通りだと思います。

今、関心という言葉がポジティブだということを改めて認識しましたので、それを抜いて、例えば、「原子力のことをもっと話し合ってもらにはどうしたらいいだろうか？」とか、「原子力のことをもっと考えてもらうにはどうしたらいいだろうか？」なら、ニュートラルですかね。

—— 先ほど、「自分ごととして」というのはどうか、というご提案がありましたよね。

(土田) 「自分ごととして」、いや、その通りなのですが…。

—— 言いすぎですか。

—— 私はむしろ、自分ごととして考えると、結局自分の判断で良いか悪いかだけであって、全体を見るようにならないのではないかと思います。だから、「自分ごと」ではなくて、「社会として」というほうが大事ではないかという気がするのです。

(土田) ひとつ難しいのは、自動車は自分で運転できるわけです。自分で車内を飾ることもできる。自分ごとになりやすいのですね。ところが原子力は、どう考えても1人1人が運転できないし、何を言っても無駄だというくらいに、かなり高度な政治判断でしか動かない。なので、原子力を自分ごとで考えようというときに、何かむなしいのですよね。絵に描いた餅を食べてくださいと言われていたような、そんな感じがするのです。

何か食べれるようなものを出してくれば、食べてみようかとは思うのですけど。テレビで出てきた大間のマグロを食べてみましょうよと言われても、どうしたらいいんだろうと思ってしまう。

—— そういう意味で、今、電力システム改革で、これから3、40年かけて変えていきたいと思いますという大方針は出てきて、その中に入っていますよね。

実は私も、「自分ごと」というのは、自分ごととして考えて、きちんと情報を仕入れて、社会全体で判断してくれなきゃいけないと思うので。それをどのように表現したらいいのかなと思うのですけど。

エネルギーは国の基盤なので国が責任を持ちますとか、国が責任を持って推進して、エネルギー事業者さんがちゃんと担保しますとか、それは潔く見えたけど、実際には中のひとつひとつの情報が全然出てこないし、教育のところでも熱心にやらないというか、あまりそちらに手を出したくないという先生方も多くて。そういうことで成り立ってきてしまった。そのあいだに、よく知っている人と、普通に暮らしている人の、エネルギーに関する情報のギャップがものすごく出てきてしまったのではないかなと思ったのですよね。

—— なぜ「関心を持つには」というテーマを選んだか、というところから広げていくのもひとつの手かなと。あなたはなぜ、関心を持ってもらうというテーマを選んだか。プラスの人もいれば、マイナスの人もいるでしょうし。やはり、その意思確認をきちっとして、それから議論を広げていくのが大事かなと。

(土田) もうひとつここで指摘しておかなければならないことは、「信頼」をどう扱うかということだと思うのですね。結局、原子力というのは、なんだかんだいっても、お上に任せられるかどうかということに最終的には関わるわけですよ。

この「関心を持つ」というのが、自分で原子力のことを全部判断できるようになってくださいということなのであれば、お上を信頼するという要素がなくなるのですね。自分で全て判断できる。あとは、自分の判断を政策に反映してもらうための行動を起こせばいい。

ところが、大部分の人はそこまでいけないと思うのですね。まあ、ある程度の知識ができた。だから、あの人たちに任せていいんだな。というステップが必ず入ると思うのですね。

そこを求めるかどうかで、このフォーラムの持っていく方が変わってくる。「だから任せられるのですよ」というステップを入れるのか。それは全く入れないで、自分でちゃんと国政の判断ができるところまで皆を持って行って、レベルアップしてほしいというふうに求めるのか。

(木村) 信頼の議論は、無理ですよ。そこまでの議論は無理です。

—— 日本の文化というのは、農耕民族の典型的な体質を持っているわけです。田植えをするわけですね。下を向いて田植えをしているから、周りから敵が攻め込んでくるということを自分で防衛できない。だから、お上にそれを完全に任せて、自分たちの安全を守ってもらってきたというのが、日本の農耕民族のカルチャーなのです。だから、リスク感覚というのは、今おっしゃった通りで、完全にお上に委ねているのですね。お上を信用して

いる。

ところが、欧米は騎馬民族で、自分の安全は自分で守るのですよ。馬に乗って、槍を持ったりして、自分で守る。だから、お上に任せるという観念はまったくない。典型的なのがアメリカの西部を開拓をしたときで、インディアンに対する守りは自分で、リスクに対するプロテクトをするわけですね。

何千年と培われた民族性というのはいろいろなところに現れていて。欧米との世論調査の比較をしてみても、はっきりそれが見て取れると私は前から思っています。

(木村) 私が無理と言った理由は、原子力をやるかやらないかも決めていないのに、それを委託するための信頼を作るということをここで議論するのは、段階としておかしいですよ、という意味です。

(土田) いや、信頼をまともに議論する必要はないと思います。ただ、議論の行く先が、だから我々は判断できますね、というところを目指すのか。

(木村) それは、参加者に決めてもらわないといけないのですよ。我々が決めることではなくて、集まった人たちがどう思うかのほうが大切であって。

(土田) なるほど。そこまで議論する必要はないと。

(木村) はい。たぶん、5回ではそこまではいかないだろうなと思って。

(土田) たぶん、議論の底流は同じだと思うのですけどね。

先ほどの話の関連で言えば、日本には城壁がないのですね。あるとすれば兵隊を守るための城壁しかない。市民を守る城壁を作った歴史がないのです。ということは、市民は安全なのです。そういう前提になっている。安全であって当たり前という前提ですから、何事もなければ考える必要がないのですよ。

自分で絶えずアンテナを張り巡らせて、少しでも危なくなるんじゃないかと思うようなものを城壁で守るという感覚がないから、もしそういうものがあつたら、もう完璧に排除するしかない。そういうものは世の中になんだという形にするしかない。原子力もたぶんその違いかなと。少しでも危なければ、完全に排除するしかない。城壁を作って、この城壁で守れる範囲内だったらあつてもいいよね、というような感覚は日本にはないので。

関心を持つということは、危ないという要素があることだから、結論としては、完璧に排除すべきだということに行ってしまう。それを再確認するフォーラムであればいいと思うのですが、別の意味で言うと、そこまで意識改革しましょうよというようなことはおそらく無理。

(木村) ちょっと待ってください。最後の展開がついていけないのですけど。関心を持つことと、今までの日本の文化との関係性はどういうふうになっているのですか？

(土田) 「関心を持つ」ということが、今までの原発推進派のイメージ戦略みたいなもので、原発のいいところをたくさん覚えてくださいということであれば、私の今の議論はまったくなしです。

なぜ関心を持つかという、普通は、危ないから関心を持つのですよ。安全だったら、そんな面倒くさいことは考えないわけです。例えば、おいしいケーキを売っている店があります。でも遠くにあるので、我々は買いに行けません。でも、そのケーキのことをもっとよく知ってください、と言われていたようなものかな。たとえで言えば。

—— 3.11 以前、私が原子力発電の仕事をしていたときに周りから言われたのは、「私は反対よ。あんなの事故が起こったらひとたまりもないじゃない」と。だけど、表立ってその人たちが反対してきたかという、そういうわけでもない。3.11 以降も、「だから言ったでしょ」ということではなくて、「私たちはどうすればいいの」というような形で、いろいろ聞いてくるわけです。

もうひとつは、やはりメディアも、事故のいろいろな情報を流し始めるわけです。それを聞いたほうは、聞いた以上、今までは知らないで済んでいたことを自分なりに判断しなくちゃいけない。そこまで真剣に思わないまでも、やはりそういう番組もたくさん出てきますし。

今までは、それはお上が考えればいいや。なんかずるもやっているみたいだけど、まあいいでしょうみたいな感じでいっていたことが、自分たちに情報がどんどん流れてくる。そうすると、自分たちで何か判断しないとイケないのではないか、みたいなものもあって、では、自分たちは何を考えたらいいんだろう、というところの「関心」ではないかなと、私は思うのですよね。

(土田) そこなのですよ。私も説明が拙くて申し訳ないのですけど。

3.11 の後、一般市民にとっては、結論が出たのですよ。「原発は危ないもので、悪いものだ」。その前は、そんな結論はなかったのですね。直観的には、感覚的には怖いんだけど、まあ事故も起きていないし、政府も必要だと言うし、大丈夫だと言うし。判断保留という人が大部分だったと思うのです。ところが、福島事故を見て、あれは悪いんだという結論が出て、その結論に合うような情報がほしいという形で、今世の中が動いていると思うのです。

—— 私は、そうでもないなと思うのですけど。そういうふうになっている人ももちろん

いますけれども、もう少しバランス感覚を持って見ている人とか、あるいは仕事をしている一般のビジネスマンというか、そういう人たちは比較的現実を見えていますよね。世の中の仕組みとか、社会とか。だから、経済面とかも見ると、即反対とか悪いものということではなくて、それは必要なものであるというような認識を持っている人もいます。

(土田) その通りです。その通りなのですが、問題は、必要なものだということを大きな声で言うだけの勇気のある人がいない。それが、今私の言った結論なのです。世の中で大きな声で言っていることは、原発は悪いということだけであって、原発が必要だということは、本音ではそう思っている人が結構世の中にいることは感じているのだけど、大きな声では言えない。

(木村) インタビューすると、両方とも大きな声で言えないと思っています。必要だと思っている人も言えないと思っているし、悪いものだということも大きな声では言えない。両方思っている。片方だけではないです。原子力についての議論が言えないのです。

—— ちょうど 1 年前に福島でいろいろアンケートを取ったときには、政府の意見公聴会などとまったく違う結果が出て。あまりそれはマスコミが流さなかったのですけど。

福島の人たちは、やはり福島で原子力を産業としてやってきたというのをよくご存知だし、だけれどもこんな事故が起きて、本当に今悩んで、苦しんでおられる。けれども、全国的に、非常に感情的に反応して、原子力ゼロというアンケートが盛り上がったときに、福島の方は割と冷静で、そういう意見が実は少なかったりというのがあるので。割と冷静な意見交換ができるような情報が少しずつ増えてきたかなという感じがします。

(木村) 前提を忘れちゃいけない。このフォーラムに参加している市民は、反対派が多いはずなのです。利用しないという人が多いのですよ。

(土田) ただ、専門家のほうは、ほぼ、

(木村) 専門家はそうなんですけど。結局専門家が市民のほうに介入しちゃったのかというと、それはしないようになり気をつけていたはずなのですけれども。

でも、反対だと言っている人たちでも、割と、こういうポジティブな話には乗ってくるということはあるんですよ。

(土田) フォーラムのいいところは、大きな声では言えないのだけど、ということ、言ってもいいんだという場が提供された。これがフォーラムの一番の効用だと思うのですよ。その意味では、いろいろな方向に議論が進んでも構わない、みたいな提示をしておく

ことがいいのだろうと思いますけどね。

(木村) ただ、一方で、反対側の意見を言うことができないような雰囲気がある、という意見があるわけですね。

—— ごめんなさい、前回、「払拭する方法」を話し合うというのは、どこから出てきたんですか？ 「なぜ、なんとなく良いイメージを持たれないのか」というのは中立的な話だと思うのですが、「払拭する方法を考える」というのは、肯定的に持っていきたいと捉えられても仕方がないと思うのですが。

(木村) それは、「原子カムラ」についてだからです。ムラを越えることがこの研究の目的だから。ムラを越えられない原因のひとつとして、悪いイメージを持っているということが挙げられた。では、それはなぜか、原因を考えた上で、ムラの境界を越えるためにどうしたらいいのかを考えましょうという問題設定だから、それは構わない。それは研究の目的だから。

だけでも、今回は「原子力」の関心の議論なのです。原子力のイメージの払拭というのは、この研究の目的ではないのです。だから、そこを間違えてはいけません。

今回、原子カムラの境界を越えるためのひとつのテーマとして、「原子力」のイメージというものが出てきた。「原子カムラ」のイメージではない。そこは勘違いしてはいけません。

—— 今木村先生が言われたその違いが、今までの 2 回のフォーラムでも常に出てきますよね。討論を聞いていると、ほとんどの人は、ムラの話よりも、原子力そのものの話をついでしてしまう。原子力はそもそも必要なの、必要じゃないの。安全なの、安全じゃないの。こういう話にすぐ行ってしまいますね。ムラの話がすっとんでしまう。

木村先生がさっきから悩んでいるのも、なんとかそっちのほうに話を戻したいと。

(木村) ただ、やはり、「原子カムラ」のイメージが悪くなっているのは、「原子力」そのもののイメージが大きいということが、この前よく分かったのです。

本当は私の中では、原子力のイメージとか、それこそアレルギーに焦点を当てて、なぜアレルギーなのかとか、そういう議論をしておくといいのかなという気もするのですが。

—— 今の木村先生のそのお話をもう一度どこかでやらないと。議論が原子力の必要性とか危険性とかそちらのほうに行ってしまうと、終わってみると、なんか最初のころにムラの話がそういえばありましたね、ぐらいいで終わっちゃうんじゃないかって。

(土田) 原子カムラの実体性がどこにあるかという話だと思うのですよ。

で、原子力に関しての考え方が違うというのが、原子力ムラの大きな実体性のひとつであることは間違いないと思います。かたや、まったく安全で、必要なもので、いいものだという人たちがいる。かたや、絶対危なくて、駄目だと言う人たちがいる。この意見の違いは、やはりムラを作ってしまうですね。

でも、ムラというのは、意見が違うだけじゃない、ということですよね。それ以外に何がムラとしてあるのか、という議論も必要だということに落としていくのかなと思いますけど。

(木村) だから、そういうストーリーをちょっと考えたほうがいいのかな。

—— 原子力ムラってなんだろう、いろいろな意見が第 1 回に出ているのだけれども、やはり最後はそこにまた戻るのではないかという気がしますね。

(木村) そうなのですよ。

「エネルギー全体の中の原子力」という案も結構出てきましたけど、それって、そもそも原子力について知りたいね、というくらいの気持ちで皆が言っているのかもしれないなと思っているところもあって。

アレルギーとかイメージ辺りがまとまって出てきたのでこっちをピックアップしたわけですけど。

—— 今伺いながら思ったのは、原子力に賛成の人と反対の人との間に壁があるわけではなくて、原子力を研究されている方と社会一般のどこかに、原子力について共に語り合えないところがある。その壁を取るにはどうしたらいいのかなということで、このフォーラムが実施されていると思っているのですが。

やはり、原子力を仕事にしている人たちと初めて話して、こんな場を初めて体験して、すごく興味があるとか、関心がありますと言って帰ってくださる人もいますし。場の設定であるとか、情報の共有の場の設定の大事さであるとか、いろいろなものは出てきていると思うのですね。

そういう流れの中で、境界を越えるときに、やはり原子力そのものに対する賛成だ反対だ、を越えて、きちんとそれを俎上に乗せて、人間として信頼関係を持ちながら話し合える場を作っていくにはどうしたらいいのか、というもののモデル的なところをこの 5 回のフォーラムで提示して、それが今後の社会のコミュニケーションのありようにひとつ提示できればいい、ということですよね。

そういうことを考えると、今回、「原子力に関心を持つには」にたくさん票が集まっているので、先ほど意見もあったように、堂々とこのまま出して、これが意味するものは何だろうというのを率直に話してもらってもいいのかなという感じがしました。

(木村) そろそろまとめていかないと、時間が押してきていますね。うーん、そうですね。

—— やはり、「グループワークの進め方」のところで、今出たいろいろな議論を踏まえて、木村先生のほうからきっちり説明したほうがいいと思います。5分じゃなくて、やはり7、8分は取って。議論が迷走したり、違った方向にいかないように、今日はこういうことで話し合っていくんですよ。全体の大きなテーマはこれでしたね。みたいなことをお話されたほうがいいのではないですか。

(木村) 前回の振り返りと合わせて話したほうがいいでしょうか。まとめて15分取って。意義の再確認から、全部やったほうがいいのかもしいですね。ここで10分、5分と分けると時間がかかっちゃいそうですけど、15分でまとめて言えば大丈夫かな。

それで、グループワーク1は13時半から始めるくらいがきれいかなという気がしますし。

—— 10人の市民の人たちを、原子力賛成派になってもらうことがこのフォーラムの目的ではないのだと。そう誤解している人も世の中にいらっしゃるということを、私は最近聞きました。

—— だとしたら、木村先生が念のためにその話をしたほうがいいかもしれませんね。

—— 我々は、こんなに手間暇かけて、10の方を折伏しようなんてつもりは全然ないのだと。

—— そう考えられる方がおられるということは、やはり、一言言ったほうがいいと思いますね。

(土田) 専門家の方々も、優秀なの方々ですから、言えば分かると思うのですね。

このフォーラムで一番大事なことは、専門家が変わりうる余地があるのかどうか、あるのだったらどう変わるのかということ、市民から教えてもらう。これが目的のひとつだったはずなのです。そこを強調しておかないと。もう、参加者にもそれが目的だと伝えてもいいかもしれないですね。

(木村) 「専門家が」とは言っていないですけど、前回説明したのですよ。目的が見えないのでそこを話してほしいというご意見があったので。

結局、一番の目的は、どうやったらお互いを「尊重」できるのか。尊重して話し合いが

できるようなことがなければ、次のステージにはいかないですよ。ただ、どうすればお互いに尊重できるのか、が一番難しいのであって。お互いに批判しあわないし、「自分とは違う意見もまた真なり」と思えるような人間として、ここにいる人たちが育つということが、実はこの目的です、と言っているのですね。

だから、意見同士を変えなきゃいけないとか、1つの意見にまとめることではなくて、という話です。

それ以上言うと、今度は、教育効果みたいになってきてしまうので、そこまではやっちゃいけないなと思ってやっていないですけど。

(土田) お互いを知るということですよ。孫子の兵法じゃないですけども、やはり知らないでなんだかんだ言っている、お互いに不幸ですから。

(木村) でも、とにかく知ると、否定したくなるのです。そこをやめましょうということ徹底しているということです。それが「尊重」するということですよ。せめてそこから始めないと、尊重なんて無理ですよ。そうじゃなかったら、自由にコミュニケーションして信頼を築いていきましょうなんて、できないですよ、という話まではやっています。

それは前回、15分くらいかけてやったのですけれども、難しかったですよね。

(土田) 当人がそれに気づくという形が一番理想的なのですけどもね。

—— すでに第1回で気づいた専門家の方もいたのだけれども、未だに気がついていない方もいらっしゃる。

—— でも、だんだん市民のほうが話の要領をつかんできているので、もしかすると、どこかでグサツと言う人が出てくるのではないかと思うのですけど。

—— そうですね。アンケートの中に、傷つきましたという専門家のコメントが入っていましたね。あれは、そうかもしれない。

—— そうかもしれないです。普段あまり言われたことがないのでしょう。

(木村) 投票の中のキーワードとしてはアレルギーくらいしか出てきていないのですけど、イメージとか、そういうキーワードも出ていたのですね。モチベーションというよりはイメージを入れたほうがいいのか。そういう言葉が割と出ていたので。

逆説を併記しておくという手はありますね。「原子力に関心を持つにはどうすればいいか？ 無関心は本当に駄目なのか？」と併記する。キーワードで、原子力アレルギーと、

原子力イメージを入れておくというのは手ですけど。

(土田) 併記するのはひとつのテクニックですよ。

—— 私、意見という言葉が気に入ったのですけど。

—— 「原子力に対する意見を持つためにどうすればいいか」とか、そういう案ですね。

(木村) それは、「意見を持たなければいけない」というのが前提になってしまうのですよ。

今までの話を聞いて、少し整理してみました。

原子力は悪いものというイメージがついている。関心を持つと、原子力は悪いものというイメージがつく。それなので関心を持つ。そうすると、そういう情報を得ていくので、不安になる。

一方で、どうしていいか分からない。どうしていいか分からないから関心を持たなくなっていく。そういう構図がありうるのですよね。だって、どうしようもないものには関心を持って、どうしようもないから、ストレスだけがたまるから、もう見ないことにする。例えば、福島直後は、もうテレビは一切見ませんという人たちが結構いましたよね。テレビをつけたら不安になるし、何をできるわけでもないから、知らないで生きていきたいという人たちが一定数いたのですよね。そういう意味も含めて、意見を持とうと努力した結果として、意見を持たないので、無関心でありたいという人たちもいたりするのですよ。

—— 関心を持たなければいけない、ということでもないのでしょうか？

(木村) そういうことです。

—— ただし、関心を持ったときに、きちんと情報が得られる仕組みがないのではないか。というのが前回の皆さんの意見かなど。教育とか、アレルギーとか。

(木村) そうなのです。だから、教育とか、透明性の話も、関心を持った結果としてどうしたらいいのかという議論も出てくるのですよ、おそらく。

—— 関心を持ったけれども、推進側の人都合のいいことしか言わない。不都合な真実は教えてくれない。反対の人も、具合の悪いことしか言わない。お互いに不都合なことは言わない。これではどう勉強したらいいのか、知ったらいいのか分からないと。

だから、関心を持たなければいけないということではなくて、関心を持ったときに、そ

の関心に応えられるにはどうしたらいいか。

誰だってそうなんだけど。別に原子力に限らず、不都合な真実は語らないのですよ。飛行機に乗るたびに、墜落確率はこのくらいありますなんて言われたら、やはり気持ちが良いくないから、言わない。これはもうどこの社会でも同じなんだけど。

—— 「原子力への関心って何？」というのはどうでしょうか。そういうタイトルだと、今みたいないろいろなお話が出てくると思うのですが。「関心を持つ」と言ってしまうと、能動的なイメージがあるから。まず、投げかけをして、そこから広げていったらいいんじゃないかなと思います。

(木村) ただ、シンプルな問いにしておかないと。段階を踏んでやると、また時間が足りなくなると思うのですよ。前回の感じだと、2問あると時間が足りないのですね。だから1問だけなのですよ。

—— 今日この場で出たような議論が、おそらくフォーラムでも出るでしょうね。

(木村) 出たらいいですけど。

(土田) でも、今のご発言は非常にいいと思いますね。「原子力への関心って何だろう？」って言ってしまえば、このキーワードが全部入るんじゃないですか。

—— 皆さん、いろいろな意見を出しますよね。教育も出てくるし、透明性も全部出てくる。

(木村) ただ、次回フォローできないと、結局第1回と同じで、まとまりないですねと言われる可能性はある。

—— テーマが広がりすぎて。もう少し、何の話をしてもらいたいのかが分かるくらいにしたほうがいいのか、という感じがします。

—— どうしてもお話を聞いていると、ずれていくのですよね。ブレインストーミングでたくさん意見を出すときに、どこまでそれを引き止めていいのか。

—— やはり、土俵はある程度見えるようにしたほうが。

—— 土田先生が、原子力は遠くにあったり、自分が動かしたりできないから、食いつき

たいものがないと言いましたよね。この事故の後も、すごく不安で心配だけど、自分ではどうにもできないのですよね。だから、なんででしょうね、あ、ごめんなさい、具体的な例を言ったほうがいいですよ。

事故があったのですから、どんなに安全だと思っている人でも、「安全ではない」と一度言っていただく。そして、事故調査みたいに原因追及をするのではなくて、二度とああいふことにならないために、自分の範囲内で、今までを省みて、どういうところを直したほうが良かった、という意見を言ってくると、私としては食いつけるかなと思ったのですよ。

賛成と反対だと、自分で判断しなきゃと思うと、このデータとこのデータと金額と、将来のエネルギー量も出したりして、すごい大変なのですけど。

こうすればよかった、これからはこうします、私たちはもっとこうすれば良かったんですね、というような話だと、もう少し一緒に前に進めれるような気がするから、そういうことが出てくるような話し合いにならないかなと思うのですが。そのためにどういう表題にしたらいいのか、思いつかないのですが。

(木村) 先ほども言いましたけど、研究としては、あくまでムラの議論なのです。原子力の議論ではないのですよ。ムラの議論をしていたときに、どうしてここが払拭できないのか、という議論なので。ムラが払拭された後にどうやって一緒に議論を進めていくか、ではないのです。

—— そういう意味では、1つステップが飛んでいる気がしているのですよ。原子力ムラのイメージを出してもらって、それを払拭する方法を出してもらったじゃないですか。

では、実際にそれをやれば原子力ムラを越えられると思いますか、みたいなのが飛んでいる。

(木村) 実は違うのです。払拭するイメージを出し切れていないのです。原子力ムラはなぜ起こるか、という議論は十分にできたけど、どうやったらそのイメージを払拭できるかという議論は、ほとんどのチームでできていない。だから、そこが一足飛びになって、イメージの改善とかそういう議論でしか出てきていない。

原子力ムラのイメージがどこから出てきたのかというのが見えて、それを払拭するための案は出てきたけど、その案が全然詰められていない。そこが一番のポイントなのです。

—— でも、それをしていないにも関わらず、その中の1つの「関心」というものだけを取り出して話してしまうと、もう原子力ムラから離れていませんか？

(木村) いや、それなので、それを払拭するためにどうしたらいいかというときに、ひ

とつは、「原子力」のイメージをもう少し掘り下げてみましょうというのが、今回の設定なのです。

—— エネルギーという広い土俵がある。その中に原子力というジャンルがある。原子力の中で相当部分は安全性の問題がある。だけど、今我々は、原子力ムラという、安全性も包含した、何となく境界はぼやっとしているけれども、そういう概念の話をしようとしている。

だから、エネルギーの議論をしても、原子力の議論をしても、安全性の議論をしても、ムラの議論とは一致しない。木村先生が先ほどから悩んでいるのはそういうことじゃないかなと。

(木村) そうです。もう1回戻りますけど、F3-8の【目的】のところに書いてあるのは、「原子力ムラ」の悪いイメージを払拭するためのキーワードとして、透明性の向上、教育、関心が出てきた。だから、払拭するためのキーワードであるところの「関心」に焦点を当てて、どうしたらこういう状態が作り出せるのか。ひいては、ムラというものが、良いイメージを持たれていない原因についての対応策というのをもう少し突っ込んで考えましょうよ、が今回の設定なわけです。

(土田) 確認ですけれども、ということは、前回の議論を受けて、その続きをやりましょうという話ですよ。

(木村) そういう感じに一応なっています。というか、そこが選ばれた感じですよ。これが例えば「エネルギーの問題」になっていたら、ひとつのトピックをやりましょうということになっていました。

ただ、ここまで粒度が下がってくると、そうは言ってもひとつのトピックに近い議論をやることになりますね。

(土田) 確かにアンケート結果で、ほぼ全員が、時間が足りないと言っているのですよね。ある人は、まとめることのみが目的で、深い議論になっていないと。やはり、もう少し深い議論をしたいという人がいる。

一方で、いろいろなテーマに話が拡散して、それはそれでいいと。フリートークの時間がほしいという人もいます。

少なくとも、前回の続きの議論をします。特に前回話題になった「関心」をやりましょう。というような導入でないと、また混乱が出るかもしれないですね。

(木村) そうです。そうすると、「原子力」というトピックに入ってきたけれども、原子

力そのもののイメージとか、原子力アレルギーが何なのとか、そういう議論にも入ってくるけれども、基本はこういうところが原子カムラにつながってきているのではないか、という仮説を立てているわけです。というストーリーだといいいのかなと思うのですね。

—— そういうのを、文章ではなく、見える化したほうが分かりやすい。説明聞いて、文字を見ても、なかなかイメージとして分からないと思います。

(木村) 見える化するというのは、例えば？

—— 原子カムラの境界を越えるというのが絶対前提にあるわけですね。そのために、今回はこういうキーワードを拾って議論します。将来はこっちのほうに行きます。要するに、このフォーラムの目的としては、そっちに向かっているよというのが、半ページくらいでもいいんですけども、見える化してあったら、ああ、自分たちは今この位置にいて、第3回はこういうことをやるんだなっていうのが分かりやすいかなと。

(木村) そこは文章では追加しようと思いますけど。

—— 説明を聞いても、参加者の人が、自分が今やっていることをどこまで把握できるか。文章だけだと少し分かりづらいのではないかと思います。

—— 絵で表せるといいですね。

(木村) 第1回のときは、ムラというものは3つのパターンで分けましたよね。言葉のイメージ。構成員、そこに関しての幅広い認識がいろいろありうるよという話を整理して。あとは、そこに付随する特徴を整理しましたよね。

そういうことを受けて、第2回は、原子カムラ全体のイメージとして、まず、どうも根本に悪いイメージがある。イメージのところから発して、議論を進めているのですよね。まあ、それが結局のところは特性などにもずいぶんくっついてきている議論になっているということですけども。

(土田) 単純な図式をすると、そこにちょっと書いたんですけども。

第1回のまとめから第2回のまとめに行くのは、ちょっと私はまとめられませんけれども、でも第2回から第3回に行くときには、第2回でこういうことが話し合われましたねと。そのうちの一部分を取り出して、第3回に持っていきますよ、という形にしないと。

(木村) それを【目的】の部分に書くのです。

(土田) ええ、だから、こんな図で書いたら見える化じゃないですか？ イメージとしては、分かりやすいと思います。

(木村) そうシンプルにならない。

(土田) そこをシンプルにしないと、たぶん、議論はいかない。

(木村) シンプルにすると、結局誘導していると言われかねないのですよ。だから、全部を尊重した上で、どうシンプルにするかという議論をしておかないと。

(土田) 誘導しないために、第 2 回を受けてはいるけれども、一応第 3 回として新たなテーマを設定しますというスタンスでいくか。まあ、参加者の皆さんの関心はそれぞれなので、統一することができないですけれども、第 2 回で「関心」について話し合いたいということが非常に多かったので、第 3 回では、第 2 回の議論を受けて、第 2 回のテーマを掘り下げるために、「関心」ということに集中して話し合しましょう、というふうに持っていくか。そこだと思うのですね。

—— 図式化しなくても、こういうものを配るわけですよね。それでいいんじゃないかなと私は思うのですが。ここにはっきり、こういうテーマでやってもらいます。こういう手順でやります、というようなことが親切に書いてあるのですよね？

(木村) はい。それを、ここに図で書くと入らないので、文章である程度書いたのですが。第 1 回のフォーラムとのつながりは確かに書いていないので、そこは追加はする予定ですが、何かまずいですか。

—— 今の説明を文章でここに追加して、体裁はこういう形でもいいのではないかと思います。

(木村) この文章だと分かりにくいということですか？

(土田) 分かりにくいです。

—— ちょっといいですか。たぶん、先ほどのご提案は、その日 1 日のことじゃなくて、フォーラムは 5 回あるわけですよね。その流れを見える化しては、ということだと思います。

(木村) 5回の流れは分かりません。これは毎回変えていくから分かりません。

—— 今、第3回はここですよ、というのを。

(土田) うーん、まあ、誰もどこに行くかは分かっていないわけですよ。

(木村) 基本的には。第5回は全部のまとめということで、どうだったかという議論をします。まあ、そこの仕掛けもずいぶん難しいですけど。第4回は何にするかは分かりません。

—— 質問していいですか。この【目的】の下から2行目のところに、「どのようなことをすればこのような状態が作り出せるのかについて、アイデアを出したい」と書いてありますが、「このような状態」というのは、上のどの文章を指すのですか。

(木村) これは、テーマが決まらないと書けないのです。

—— ああ、そうなのですか。テーマが決まれば、ここに、もう少し具体的な言葉が入る？

(木村) はい。例えば、「関心を持って原子力のことを考えられるようになるには、どうしたら良いだろうか？」というテーマであれば、「関心を持って原子力を考えるという状態が作り出せる」という意味です。だけど、それっていいのかな、というのが私の中では問題だし、ここはまだ文章は詰まっています。

—— 【目的】のところに、図ではなくて文章でいいのですが、全体の大きなテーマをちゃんと言葉で書いて。第1回のことをちょっと書いて。それから、第2回フォーラムではこうでしたね、それで第3回目はこのテーマにします、っていう整理を書けばいいと思います。

(木村) それをしようと思っています。

—— そうですよ。それでいいんじゃないかなと思います。

(木村) で、振り返り用資料として、今は書き起こしをつけていますが、これを再整理をして、読みながら前回の振り返りをしますからね。だから、それを受けてなので、そんなに分かりにくいと思います。

—— ムラの悪いイメージというのは、最終的には「閉鎖性」というところでだいたいくくれるかなと思ったのですね。

(木村) ではないです。

—— うーん。大きくくくると、「閉鎖的」であるから、利益集団にもなるし、マスコミはちょっと違うかもしれないけど、不安があって、

(木村) それは、第1回のまとめをよく見ていただきたいのですが、原子力アレルギーの議論が出ていますよね。そういうものもちゃんと入れておかないといけないのです。あとは、いわゆる専門家集団としての変な独立みたいなのところもあるので、そういうのも入ってくるかもしれない。だから、必ずしも透明性だけではないです。

—— そうすると、あまり固めないで、いろいろポコポコ出たものを考えないといけないということですね。もう少しまとめられるかなと思ったのですが。閉鎖的なところに関心を持つにはどうしたらいいか、という議論に行くのかなと思ったのですが。閉鎖的なところにはなかなか関心が持てないじゃないですか。持とうとしても持てないというか。

(木村) 関心を持てない。情報が手に入らないではなくて？

—— 情報と関心とは違いますよね。

(木村) 違います。閉鎖性と関心が持てないというのは、何かつながりがあるのですか？

—— はい。私はあるかなと思ったのですが。

—— 私たちを入れてくれないという感じがあるからですよ。

(木村) でも、それは関心を持とうとしていますよね。「関心を持とうとして持てない」ですよ。「関心を持たない」ではないのですよ。段階が違うと思います。

関心を持ったとしても、それをちゃんと満たしてくれる体制はどうあるべきかという議論と、関心を持つための議論は、フェイズが違うのです。当然フィードバック系ですけど。

—— 質問なのですが、今までで、関心を持って原子力のことを考えれば、原子力ムラの悪いイメージを払拭できるのか、というところの答えはある程度出ていると見ていいの

ですか？

(木村) 出ていないと思います。そうではないか、という提案だと思います。

—— というニュアンスを入れないと、原子カムラを越えるということと今回のテーマがつながらないですか？

(土田) ということは、関心を持ってもらえれば、ムラの境界を越えられるのか、というようなテーマ？

—— いや、ごめんなさい、第2回のフォーラムでそこを突き詰めていけていたのかどうか、私はあまり分かっていなくて。

(木村) そんな時間はなかったと思います。5分くらいしか話していないから。

—— そうすると、関心を持てれば原子カムラの壁がなくなるかどうかというのは、結論は見えていないのですね。

—— それは参加者の方は分かっているのでしょうか？

—— そこは分かりません。私は、関心を持てれば全て解決ということにはたぶんならないのではないかと思います。

—— 前回、原子カムラの悪いイメージを払拭するためにどうしたら良いかという最後の話し合いがあって、いろいろな話が出て、その後、そういうことを踏まえて、次回どんなことを話し合いたいのかキーワードを挙げていただいて、それで投票したわけですね。

ですから、このテーマを「原子カムラの悪いイメージを払拭するために、関心を持って原子力のことを考えられるようになるには、どうしたら良いのだろうか？」として。下のほうに、「冷静に話し合える状況を確保することを念頭にしている」と書いておくとか。

(木村) スペースは限られていますので。今のところ増える議論しかないですけども、減らす議論も同時にお願ひできますか。増やすのは簡単なのですよ。増やす議論は、減らす議論と同時にしてくれないと無理なのです。

—— はい。ただし、私は今増やしているのではなく、なぜこれが出てきたのかということに参加者にきちんと伝えることで、意味が伝わると思うのですね。単に「関心を持って」

と言うと、また話がいろいろなことに広がっちゃったりするので。前回とつながっているということをきちんと伝える。それで、このテーマがあると。

なおかつ、「関心を持つ」と言うとき、原子力賛成って言わせたいのね、という誤解が生まれるかもしれないと懸念して、先ほどから話があるので、そういう話ではないということを書き添えておかないと、後でこれがコピーされているところに回ったときに抑えが効かなくなるかなと思って、発言をいたしました。

(木村) それは書いたほうがいいですか？

—— それは口頭で先生が説明したらいいのではないのでしょうか。

—— 先ほどおっしゃったように、振り返りをしてから、ここに行くわけですよね。だから十分じゃないかなと私は思うのですけど。

(木村) 書くと、逆にネガティブかなという気もするのですよ。逆差別みたいな。

(土田) ただ、先ほど良いことをおっしゃって。これが公表されていくわけですよね。この資料というのは、発言内容以上に人目に付くと思うのです。アイキャッチが高いと思う。それだけを見て外部の人が判断したときに、偏っているという印象を与えるのはやはりまずいのではないかと思いますね。

参加者はそれで分かるけれども、その資料を見たときに誤解を受けるようでは、やはりまずい。

—— 間違っただけで解釈する人もいます。それを防ぐためにも、ちょっと長くなるかもしれないけど、文章で書いておいたほうが、誤解は招かないと思いますけど。

—— では、例えば、このキーワードの興味・関心のところに、カッコ書きで批判も含む、とか。

—— 「原子カムラを越えるために」というのははっきり言っていいわけですよね。だから、「原子カムラを越えるために、関心を持って原子力のことを考えられるようになるには～」とか。そうすると、その方向に向かって自分は何か意見を言うんだなというのが、ある程度集約されるので。

「関心を持って」だけを言うと、それぞれ皆、原子力賛成、反対、他のこと、諸々いっぱい頭に浮かんでしまうから、はっきり言ってもいい目的を頭につけて、軽く縛ってしまうというのはどうでしょうか。そうすると、この「関心」というのは、悪い関心でも良い

関心でもなく、その方向に向かった関心というふうに取りやすいかなと思います。

—— 私も、遅れてきたもので、後からこの資料を拝見して、「関心を持って原子力のことを考える」という字面だけ見たら、そっちに行っちゃうの？ どこに行くんだろう？ みたいな印象を持ったので。なんのために関心を持つかという目的を明確にすることはいいんじゃないかなと思いました。

—— 第1回的时候に、原子カムラとは何か分からないっていう人が多かったじゃないですか。原子カムラって何なのか、まだあまり答えが出ていない中で、「原子カムラを越えるために」と言われても、悩むんじゃないかなと思うのです。

—— あと、今さらなのですけど、何回かやってきてみて、改めて原子カムラの垣根を越えるのは、どっちなのですか？ と思いました。越える越えると言っているけれども、それは市民の側が越えていくのかなって。目的としては、たぶん、原子カムラと言われている人のほうも、自分たちの立ち位置を考えて、普通の人はどう考えているのだろうかということも考えることも必要だし。市民のほうも、マスコミなどの影響を受けて悪いイメージばかり抱いているところを壊して行って、近づいていくのも大事なわけじゃないですか。

だから、やはり、もう1回目的を再確認する。1回1回、くどいようでもしていくことは大事かなと思いました。そうでないと目的がぼやけてしまうというか、皆さん、今話していることに集中して夢中になっちゃいますから。

—— どちらが越えるかなんて、誰も何も言っていないのですよ。それは自分の中で、このフォーラムを通じて、結果を出すことで。

—— 市民の方も専門家の方も、両方が自ら意識変革を考えてくれるような状態が起こってくる。そういうところが出てくるように願うというか、そのためにはどういう状況設定が必要なのかということが、この研究の大事なところだと思います。

「関心を持って」と言うだけだと、いかにも市民が関心を持つためにどうしたらいいのかという話になるけど、市民が関心を持つために、専門家は普段どうしたらいいのか、というところまで行けばいいのかなと思うのですけど。

—— 専門家の方が、別に理解されなくてもいい、悪いイメージのままでもいいと思っ
ているというのをびっくりしました、みたいなご意見もありましたので。やはり「両方が」ということを1回1回言ったほうがいいと思います。それも、示唆的になっちゃいますかね。

—— 難しいですね。あまりいろいろ言うと、それこそ誘導しているとか、そういうのは絶対に出てくると思うので。

(土田) ちょっと教えてもらえますか。私が最初から違和感を持っているのは、いわゆる専門家という人は、非常に原子力に関心を持っていますよね。原子力学会の会員なんだし。その人たちにさらに関心を持ってもらえという議論は、常識的にはあまり考えにくいですね。そうすると、やはり市民のほうにだけはたらきかける議論をここでするのか、ということになってしまいますよね。

そうすると、専門家も変われと言っているんですよと言うものの、もうこれ以上専門家の関心をどう上げるんだということになるから、結局、市民をどうしたらいいでしょうかという議論に終始することになると思います。

—— 先ほどもその話はあったと思うのです。誰が関心を持つのですかと。

—— 主語ですね。

—— そう、だから、「日本全体で」とか、「国民皆が」ということで言えば、そういう状態になるにはどうしたら良いか、専門家として何か良い考えを出しなさいよと。あなたが関心を持ちなさい、ではなくて、日本全体がもっとこのことについて関心を持てるように、考えられるようになるために、専門家として何かいいアイデアを出しなさいよと。そういうふうに言うこともできるわけですね。

(土田) ただ、そうすると専門家の上から目線がなくならないですね。全部、専門家が市民を上から目線で、この人たちをこうしなきゃっていうような話になる。私は、このフォーラムの目的は、専門家が上から目線でなくなるんじゃないかという気がするのです。

—— それはありますよね。

—— それで、今困っているのは、参加者の皆さんに出してもらったらこういうテーマになったので、どうやってこのテーマをうまく活かしつつ、そういう話に持っていくかというところを困っているのだと思うのです。

—— 専門家の方は、例えば「(原子カムラを) 越えるために関心を持って原子力のことを考える」というテーマがあったら、技術のことしかお考えにならないですか？

(土田) なるほど。他分野のことを知ろう。それが関心を持つということだ。それはひとつ考え方ですよ。

—— ですよ。市民は、「関心を持って」といったら、原発のこととか、立地のこととか、安全のこととか、自分の身に引き寄せてくくらいまでしか考えないと思うのです。あとは、相手に何をしてもらいたいのか、ということを考えて思うのだけ。

専門家の方は、どのように考えるのかな、と思ひまして。

(土田) 言葉を変えると、専門家にとって関心を持つということは、原子力の幅広い専門知識を持つようにしましょう、ということになりますかね。

—— ご意見に出ていましたね。

—— その幅広い知識の中に、市民がどう思っているのかとか、組織をどうしたらいいのかとか、信頼関係はどうしたらいいのかとか、そういうところに落ちていければいろいろな意見が出るかなと思うのですけれども。それを喚起するためにはどういうタイトルにしたらいいか。市民のほうじゃなくて、専門家の人に、そういうちょっと違うことも出そうかな、と思ってもらうためには、どうしたらいいんでしょうね。

—— でも、市民がそれを指摘してもいいんじゃないですか？ 「技術とか、そういうことだけじゃなくて、コミュニケーションとか、そういうことがもう少しまくならないと駄目ですよ」とか。「そういうことを言ったら、国民ももう少し関心を持てるんじゃないですか？」とか。そういう意見が市民側から出てくればナイスなわけですよ。

(土田) これはまさに危機管理学とかの教科書に載ることで、専門家の無責任ってそこなのです。自分の分野は責任を持つんだけど、それ以外のところは責任が持てない。

—— イコール、関心がないということですよ。

(土田) ええ。で、事故が起こっても、それは私の専門じゃありませんからと言って、責任を取ろうとしない。

—— 「広く」にします？ 「広く関心を持つには」。

—— でも、そういう話がグループワークの中で出てくればいいことですよ。

—— そうですね。

—— 私は、そろそろ出るような感じがするのですよね。

(土田) 「あなた専門家なのに、それを知らないんですか？」というのを、どんどん言われればいいと思う。

—— そうですね。

—— 例えば、市民から、「じゃあ専門家の方は、まったく知らない私たちみたいな人に、どうやって情報を伝えようとしているんですか？」みたいなお話が出てくれればいいわけでしょう。

—— 「そういうふうに上から目線で言うから、受け取りにくいんですよ」ぐらい、言い返す人がいるといいなと思うのですが。そういう人がきっと出てくると思うのですよ。

—— 専門家の方で、市民の方はどういう情報が必要かを知ることが大事だとおっしゃった方もいたのですよ。

—— 市民が知りたいと思っていることと、いわゆる専門家と言われる人から流される情報にギャップがあるという意見もあったのですよ。だから、そこら辺をすり合わせて、一般市民が知りたいことと、それから、専門家はそれに答えるみたいなやり取りができていけばいいわけですよね。理想的には。

—— 市民に向かって話をしていないとか。そういうキーワードはたくさん出ているのですよ。

(木村) そろそろまとめていかないと。F3-8の【目的】の部分は少し変えるにしても、テーマとしては、3つ並べるというのがひとつあるかもしれない。「ために」とかを入れると長すぎるので、シンプルに、「原子力に関心を持つためにはどうすれば良いか？ 無関心は本当に駄目なのか？ そもそも原子力への関心とはなんだろうか？」という3つの設問を並立してしまう。

ただ、そうすると、時間が足りないかもしれない。

(土田) 3番目のところにカッコとして、「市民として、専門家として」みたいなのが入っていると、さっきの議論が。

(木村) はい、そうなのですが、そこまで入れると、

(土田) 誘導になりますか。

(木村) はい。

(土田) 一番大事なものは3番目じゃないですか？

(木村) 3番目に結びつけるためには、1番目、2番目は欠かせないのです。そうしないと、前回からの流れが切れてしまうし、投票結果を受けてないですねって話になってしまうので。

で、これを3問と考えないで、1つの問いとして考えて答えてもらうというスタイルでやるしかないですかね。そんな感じでしょうか。

—— そうすると、ポストイットに書いてもらったときに、「原子力に関心を持つには」ということで書いたものと、「無関心は本当に駄目なのか」で書いたものと、「関心とは何なのか」で書いたものが、さりげなくグルーピングができるといいですね。

(木村) 最初から上に3つ書いておいて、どこに該当する意見です、って貼っていったらもらったほうがいいのかもかもしれません。

(土田) それはいいですね。

—— そのほうがはっきり書けますね。

(木村) それで、今回は時間を取っているので、グルーピングも参加者にお任せする。なるべくお任せする。

—— できそうですね。

—— そういうふうに書いたら、やってくださいますよね。

(木村) では、この辺りが共通解かなという感じですけど、いいですか。では、そんな感じでいきたいと思います。

では、F3-3に戻ってください。

その後は、回答づくりは前回と同じです。ただ、45分とっています。質問に関しては、前回とまったく同じにしていますので、そういうつもりでお願いをしてください。

次回のテーマについて、ここで決めるか。それとも、前回、「エネルギーの中の原子力の位置づけ」みたいなことを、第4回の候補にしますという話はしています。どうするか。ここに関して意見を聞きたいというところです。

それに関係して、もし第4回を専門的な議論にするのであればということで、F3-10を用意しました。つまり、テーマが具体的に決まったら、それについて調べたり考えたりしたことを、ここの囲みの中にまとめて、PONPO宛に次回のフォーラム前までに郵送してもらおう。で、それを全部コピーをして、まとめて、再配布する。その上で、それをグループの中で紹介しながら、ディスカッションをやっていく。そういうスタイルができないかなと。まあ記名にするかどうかは悩んでいるところではあるのですが、そうすると、専門家のほうも、この中に収めるのはきついと思いながらも、頑張っただデータを自分なりに整理して書いてくれるんじゃないかという期待。

要は、もし専門的な議論になっても、講師を呼びたくないのですね。せっかくこれだけ携わっている人たちがいるのだったら、携わっている人たちがその問題について何を考えているのかをしっかりと書いてほしい。説明するのだったら、自分たちの責任で説明してほしい。情報の偏りが十分に出てきた場合に、どんなコミュニケーションになってくるのか、というのは興味を持っているところなので、それをやってみる。ただ、これは原子力ムラの境界を越えることにどういう意味があるのかは分かりません。

もうひとつの考え方としては、ムラを越えるための議論を進めていくのであれば、やはり前回と同じように次回のテーマはそこで決める。その中で専門的なテーマが選ばれたら、実はこんなものも準備していましたとってお配りをする。そうでなければこれはなかったことにする。そういう手を今考えていますけど。

—— 専門的なテーマって、どういうものですか？

(木村) それこそ、「エネルギー全体の中の原子力」とか。原子力はどう扱っていくべきなのかとか。それなので、テーマ欄は空欄にしてあって、その場でテーマを決めてもらって、その場で書くと。どうですか？

(土田) いいんじゃないですか。でも、ちゃんと説明しないと、結局、資料は別紙という形で大量につける人が出てきそうな気がしますね。

—— 私もそう思います。1枚で収めてくれる人が何人いるのか。

—— それはありますね。

(木村) そう、それが一番困るのですよね。

—— でも、このやり方をプラスに考えるとしたら、今回、原子カムラと言いつつ、市民の方にとっては、原子力について話し合うフォーラムに参加するというので、原子力のことをいろいろと考えていると思うのです。だけど、1回目から原子カムラということで、すごく表のほうを搔いている感じで、本当にかゆいところにはいつまでたっても手が届かないみたいな、そういうちょっとしたもどかしさはあると思うのです。だから1回くらい、皆の一番関心があるところに手が届くような議論をしましょうというのは、私は、皆さんの気持ちのありようもそれでちゃんと把握できるし、いいかなと思います。

(木村) そうですね。で、自分でまとめてもらおうと、その資料自身も分析できますので。インタビューもするのですけれども、その前にデータとして押さえられるので。

—— 市民の方の中には、うーんって顔をしながら帰る方が数人いらっしゃるので、あの方たちにとっては、そういう気持ちがすごく強いと思うのですね。

(木村) そうなのです。

(土田) 個人的な感想ですけど、「原子力はやめることができるのか」とか、そういうテーマであれば、食いついてくると思うのですよ。

—— 食いつきますね。

—— それで、資料の添付なんていう話もありましたけど、とりあえず、考えていることのエッセンスをこの中にまとめて下さいと。これだけはルールでお願いをするとか。

(木村) はい。添付の資料はどうでしょうか？

—— 当日持ってきてもらって、見せるとか。

(木村) はい。たぶん、全員が全員に共有する時間はないんですよね。

(土田) 全員に見せるとなったら、電子化したものを別途送ってくださいというのが一番便利だと思いますけど。

(木村) ただ、そうするとメールを持っていない人との差別になってしまうので。

(土田) であれば、もう A4 1 枚だけにする。要点だけ。詳しい内容ではなくて、こういうことを調べました、みたいな形で送ってもらったらいいのではないですか。あとは口頭で説明してくださいと。

(木村) どうでしょうか。ただ、どんなに分厚くなっても、その人が調べたことは出してもらったほうがいいかもしれない。

A4 1 枚は、必ず書いてくださいと。その他に調べたことは、プリントアウトして、封筒に入る範囲だったら送ってください。そのくらいはいいかもしれない。

(土田) それはいいかもしれませんね。

(木村) 共有できないので、本はやめてくださいと。

—— 専門家は本になるかもしれないですよ。ご自分の研究論文が載っている冊子とか。

—— ものすごい量の資料を持ってきている人もいましたからね。

(木村) あれをそのまま送ってくるんじゃないかなと思います。

でも、そういうところで一旦がっつりやるのもいいんじゃないかなと思います。いろいろなところでいろいろな人がいろいろなことを調べて、こういう意見を表明しているということをブックとして作ってしまう。それを共有できる場って、めったにないと思うのですよね。

(土田) うん、いいんじゃないですか。

—— 例えば、出典を全部つけてもらって、紙の量を減らす方向は駄目なのですか？

(木村) 専門家は別にいいのですが、普通の市民からとってみたら、出典が明記されていたとしても、そこまであたる気にはならないのですね。だから、出典を書くくらいだったら、それをコピーして、内部資料として配布してもらえませんかというほうが親切だと思います。

—— そうしたら、例えば、何十枚というものが来たときに、それを全員に何十枚ずつ配るのですか。ものすごい量になりますよね。

(木村)　そうです。可能性としては、報告書みたいなものを1冊ずつ配ることになるかもしれませんが。

——　それが実際に行なわれたら、市民はいろいろ思うところはあると思うのですよ。やはり専門家はおかしい、と思うと思うので。それはそれでいいことだと思います。

(木村)　当然、自分が言いたいことはA4の中に収めるのですよ。だけど、そのためにこれだけ用意して、これだけ調べて、その中のここを言っているのですということの、迫力のある現物として、そこにあるということの貴重さだと思うのです。

——　いいと思います。

——　市民の方は、分かってもらえた感が強くなると思うのですけど。

——　そうですね。

(木村)　その場では説明しきれなくても、そこに書いてあるから、あとで読んでくださいというのは、ひとつの手かなと思うのですけど、どうですか？ やってみましょうか。

——　どんなものが出るか分からないですけど、やる価値はあると思いますね。

(木村)　貴重品にはなると思うんですよ。
でも、そんな暇があるのかって気もしますが。

——　本音が良くわかりますよ。

(木村)　そうですね。

それに、そういうのをまとめたら、名前だけ消して出していいですかという承認を取れば、そのままでもいい資料になると思います。

(土田)　なりますよ。だって、その人がこういう意見を持った根拠は何かということになるのだから。

——　市民の根拠になるのは、どなたか専門家の書いたものとかの可能性が大きいですよ。

(土田) かもしれないし、ネット上の情報かもしれないし。

—— そうすると、専門家の方が持ってくるものと、市民の方の持ってくるものと、両方集まる可能性があるから、面白いですね。

(木村) まあ、そんなことをやっている暇はありませんという人もいるかもしれないけど、その人は、少なくとも1枚だけは書いてくださいと。

—— 雑誌かもしれない。

—— 新聞の切り抜きとか。いかにそれに左右されたか。

—— テレビで見ましたとか。

(木村) やってみましょうか。何が出てくるか分からないですけど。

では、そういう意味では、やはり本当にかゆいところまで届かせてあげるということも踏まえて、前回の次点だったものを次回はやりたいと思っています、ぐらいのことを言ってもいいかもしれないですね。もしくは、もう少しそこは話し合ってもらったほうがいいですか？

(土田) ただ、一点だけ確認しますが、参加者の一番かゆいところというのは、我々は把握しているのですか？

—— いやあ、どうなのでしょう。

(木村) では、やはり次回テーマを出してもらって話し合いをしたほうがいいですか？

—— かゆいところがどこにあるのか、提出してもらった資料を見れば分かるようなテーマを出せばいいんじゃないかと思うんですけど。

(木村) たぶん今言っているのは少し時間がずれていて。テーマを設定しておくために、かゆいところがどこなのか分かっているのですかというのが土田先生のご指摘です。ちょっとタイミングがずれる話になりますね。

—— それはムラに関係することになるわけですね？

—— でも、実はムラとあまり関係ないところにかゆいところがあるかもしれない。

(土田) ムラに関係ないかもしれない。けれど、これを話したいからここに来たんだっていうものを満足させるのも、フォーラムのひとつの目的だと思います。

(木村) 逆に、テーマを決めないで、各自に書いてもらいますか？ 難しいですかね。

(土田) 難しいでしょうね。だって、3つくらいの要素を同時に進行させることになるでしょう。何に関心があるのか。何を根拠にしているのか。それから、皆で話し合うのにそれでいいのかということ。

(木村) ちょっと難しいですよ。

—— それを総合できるようなテーマを、今から皆さんで考えませんか。

—— 先ほど出た、「原発はやめられるのか」っていうのはどうでしょう。

—— いや、かゆいところとなると、もしかしたら、話し合ってもあまり進展がないテーマになる可能性はありますよね。

—— だから、もう第4回で終盤に向かっているので、今回は今までの話し合いを基にして、こちらから提案したいと言ってもいいのではないかと思うのです。

そのときに、皆が違うかゆいところを持っていても、書けるようなテーマ。

(土田) 先ほど言いましたけど、原子力をやめることができるのかというのは、専門家からすれば、やめられるわけがないという資料を持ってくるでしょうし。市民のほうでは、なんとかなくてもできるんじゃないかという資料がくるだろうし。

—— もし否定派であれば、やめられるやめられないじゃなくて、やめるべきだとか、そういう意見を言うかもしれない。そういうことを言いたくて来ている人もいると思うので、そういうチャンスではある。

(木村) やはり、口で言えなくても思っていることはあって、どこかで表現したいと思っていることはあると思うのですね。そこを何とか。うーん。

—— このテーマは、はっきりしたものにしないといけないわけですか？ その人がそれぞれ、こういうことが言いたくて参加した、というテーマがあるような気がするのですけれども。

(木村) そうなのですよ。だから、第4回は、そういうことまで含めて、1人1人にかかる時間をとって、皆の前で講演してもらおうとか。

—— いいんじゃないですか。

—— そんなに時間ありますか。言いたい人はいっぱいありますからね。

(木村) 当然時間は区切りますけど。

—— 20人で10分だと、200分。

—— もうそれで終わりです。

(土田) でも、聞いているほうは大変ですよ。

(木村) 確かに。だから、やはりグループワークで、複数人の中での交換しかできないと思いますね。全員が全員には無理ですね。

—— 例えば、最初の自己紹介の代わりに、1人10分だけ。時間管理をしっかりやって、

—— テーマは自由に？

—— とりあえず、ここに書いてある内容に沿うとか。

(木村) 1人10分だったら、だから、終わっちゃうんですよ。

(土田) 5分じゃないですか。だから、演説は駄目と。言いたいことを要点をまとめて、とにかくここで言ってくれと。

—— 正直、A4にまとめたことを言うくらいなら、3分ぐらいが精一杯ですよ。よほど小さい字で書かない限りは。

(木村) ただ、それがなぜかというのを説明し始める可能性があつて。

まあ、でも、読み上げるだけでも、そのあいだに皆パラパラ見ながら聞くから、それだけで共有する時間にはなるのでしょうか。

—— 10分は長いですよ。ちゃんと紙にまとめてくれば、5、6分でもいいんじゃないですか。

(木村) 全員でやったほうがいいですか？

(土田) いや、やってこない人もいるかもしれませんから。

—— チャンスは全員にある。でも、やりたくない人はやらなくてもいいとか。そういうことではどうですか。

(木村) 一応、宿題ということにしたいと思いますけど。

テーマは、大きくは3つだと思うのですよ。ひとつは、原子力は安全かという議論。ひとつは、原子力はやめられるのかという議論。必要性の議論ですね。ひとつは、エネルギーの中で原子力はどういう位置づけなのか。

教育や関心は第3回でどうにかフォローできるとしても、他に出てきた付箋をフォローすることが第4回でできる可能性があるんで、その3つくらいが実は出てきている話題なのですね。

—— 3つからの選択制でいいんじゃないですか。

—— 私も3つからの選択制がいいと思う。

(木村) そうしたら、選択制で、同じテーマをチョイスした人たちでグループワークをしますか？ 人数に偏りが出るかもしれないけど。

—— 基本はそれで考えておいて、それは後で考えるということ。

(木村) では、今までの話を受けると、3つの問いがありますと。

—— それぞれ発表して、後でまたグループに分かれて話し合うのですね。

(木村) あ、そうしますか？ その辺りも少しイメージを作っておかないと。

—— このフォーラムは、人の意見も聞いて、自分も考えるみたいなことが大切なのだったら、しゃべるだけでなく、話し合いもあったほうが良いと思いますけど。

でも、話し合いにならない可能性もありますよね。お互いが言いつばなしとか、1人が長く話してしまう可能性はあるから、そのときはもう1分ずつとかにして。

(木村) だから、やはりグループワークをやると。

でも、このスタイルだと、全体共有がしにくいのですよね。まあ、ある意味で、その本を全員に配れば全体共有ですけど。

(土田) 少なくとも最初に、2、3分でもいいから、どういうことを調べてきたのかということは、全員で聞く。で、特に関心のあるところに分かれて、グループワークを始める。

—— グループワークをする前提でいくと、テーマごとに人数が6、6、6くらいにならないといけないということですか？

—— いや、ならなくてもいい。

(木村) ただ、極端に少ない場合にどうするかですよね。

—— そうしたら、それはひとつだけ独立させてやるとか。それはやはり出てきてから悩んだほうがいいです。

(土田) 3つを提示するわけですよね。であれば、提示したときに、どれを調べる予定か、意思表示してもらったらどうですか。

(木村) だいたいの配分を知っておきたいのと言って、やってみましょうか。そのくらいだったらすぐできますね。

—— 今テーマを聞いた印象では、皆さん、どれでしょうかと。手を挙げてもらうと。調べている途中で変えても、それは仕方がない、いいですよと。

(木村) はい。それなので、スケジュール表では「次回のテーマについて」は私がやることになっていますが、そういうことを話そうと思っていました。では、そういう形で、次回までにどういうことをやってきてもらうかということをご案内するということですね。

—— 今の話だと、無理に人数調整はしないということですか？

(木村)　しません。すでに偏っているのだったら、偏っているなりに考えます。もう完全にバラバラに分配するとか。それで、自分はこういうことを調べてきたというのを意見表明して行って、それこそ個人に対して、意見や質問をバーッとその場で書いてもらって、出してもらおう。何かものをまとめるのではなくて、お互いのコミュニケーションツールとしてグループワークを使うというスタイルになってしまいますけど、そういうのはひとつの手ですよ。

で、この回は最後の全体共有は無理なので、最後の一言のところを多めに取って、今日やってみて、どうだったかというのを最後に言ってもらおう。そんなスタイルのスケジュールでいけるかもしれないですね。やってみましょうか。変に失敗するかもしれないですけど。

—— 最初に調べてきたこととか意見とかが出ているので。そうすると、それについて話し合うというのはいいですよね。

(木村)　そうすると、前回投票されたテーマもうまく活かせる。

第3回は、関心ということから教育ぐらいの議論まではフォローできるでしょうと。原子力そのものの今後の話がどうなのかは、第4回にやると。

では、次回のグループワーク2の中では「次回のテーマについて」は入れないことにしますね。

—— 調べたら、出典というか、どこを調べたかは書いてもらったほうがいいですね。

(木村)　たぶんこれを書いたら、本当に説明したい人は出典だけ書いても物足りないのので、たぶんデータをプリントアウトして送って来ると思います。

ただ、それが何なのかは分かるようにしてくださいと。

(土田)　そう、出典という言葉ではなくて、何のデータか書いておいてくださいねと。

—— 何のデータか。どこを調べたか。

(木村)　添付の書類を作ったら、それが何なのか、その資料の出典元を書いておいてくださいと。

(土田) 自分のホームページという人もいそうな気がしますね。

—— 自分の本とか。きっといらっしやるんじゃないですか。

(木村) では、次回のテーマに関してはそんなところで。

あと、フォーラムの関係で確認しておきたいのが、ブレインストーミングのやり方(F3-7)です。

前半は変えていません。四角の中だけ、少し変えました。「今日のフォーラムで気をつけること」の〔コミュニケーション〕のところで、「私の意見」を言うことが大切です、とつけました。これをつけておいたほうがいいかなと。ここは下線か何かで強調しておいたほうがいいですかね。あとは最後に、グループみんなで、ファシリテーターを助けるようにしましょう、と書きました。

他に入れておく必要がありそうなことはありますか？ この前出た話だと、このくらいを追加して、今回のおおさらしながら話し合いを進めたらいいのではないのでしょうかという感じだったと思うので、こんな感じにしたのですけれども。

今回も、サブファシリテーターの役割は前回と変わりません。意見を言ってもらったときにワッと書いて、貼っていくと。でも、今回はグルーピングは、参加者に動かしてもらったところまで含めてやってもらうようにしてください。

—— 書くのだけはやって。もう、グルーピングは、

(木村) そうです。やってくださいと。そこはファシリテーションのほうでやってくださいと言ってください。一応進め方にも書いてあるのですが、なるべく。で、時間も頑張って取っています。

あとは、グループワークの進め方(F3-8)に関しては、目安の時間をつけてあります。何か変なところがあればご指摘ください。例えば、グループワーク1で、1番と2番で3分、10分とやっていますが、ここはまとめて15分にして、最後のホワイトボードに貼るとか発表者を決めるなんて0分でいいです、とか。何か、変なところはありますか？

—— 目安の時間のことではないのですが、15分前に総合ファシリテーターからアナウンスがあったときに、それをサブファシリテーターが拾って、ファシリテーターに言ったほうがいいと私は思うのですが。

(木村) ああ、そうですね。

—— 一応聞こえてはいるのでしょけれども、改めて、「今、15分前ってアナウンスがあ

りましたね」と、ちゃんと目と目を見て話せば無視できないと思うので。

(木村) 裏面のグループワーク 2 の進め方に関しては、「質問を作る」というところを結構しっかりやらないといけないので、10 分間くらいでやるということにしました。そして、優先順位の番号、①～③を振りますということを入れました。この前、それを入れたほうが分かりやすいということだったので。

①の質問に対して 10 分間使って回答を作りましょう。②、③に関しても各 10 分。そうすると、少し遅れたとしても 40 分から 45 分で終わるということで、こんな感じで書いています。

—— グループワーク 2 で、質問と回答の関係が分かるように模造紙をまとめてもらうとありがたいです。できるだけ、この質問に対して、この回答、というようにかたまりになるように。前回、質問がどれかよく分からなかったのです。

—— これが質問です、これがその答えですってはっきり書いてほしいということですよ。ね。

—— そうです。

—— これが①の質問で、これが①の答えですと。はい。

(木村) そうしたら、「質問が見て分かりやすいように付箋を整理し直しましょう」とか入れましょうか。質問を作ってもらって、付箋を移動してもらって、例えば、その下に答えを貼るようなという形で全体の構造を作ってもらう。伝わらないかもしれないけど、その手順を書くようにしますね。なので、そういうことなのねという感じで、サブの方はフォローをお願いします。

前回は、3 問に対して 3 分間で全部に答えてくださってやりましたけど、分かりにくくなるので、やはり 1 問ずつ対応することにします。1 問に対して答えを考えて、1 分間で書いてもらって、ワーッと出して、答えをまとめて。では次、という感じで、1 問 10 分くらいでやっていく。全部で 45 分取っています。10 分前だとギリギリ感があるので、15 分前にアナウンスをしてもらうと。

さらに、F3-3 だと、45 分、カッコ 5 分と書いてありますけれども、これはさらに 5 分間余裕があるということです。

ちなみに今回は、回答の紹介には 1 班 3 分しか取れていません。だから 1 問につき 1 分、そういう感じで 3 分の回答。で、1 分間だけ余裕があって、全体で 10 分になっています。ただ、グループワーク 2 は 45 分取っていますけれども、そこから次の回答に移るまでに 5

分間余裕があるので、うまくいけばここを前倒しにしていけるかなという気もします。少し余裕を取ってスケジューリングをしてみたということですね。

ということで、以上が第3回の方針ですけれども、いかがでしょうか。だいたいよろしそうですね。

では、直前に、最終的なものはまた皆さんのところに用意してお配りしますので、そちらをご参照ください。

—— これ（次回のテーマの投票結果）は資料番号を振らなくていいのですか？

（木村） これも資料番号を振っておきましょうか。F3-5-4にしましょう。

3. フォーラム終了時のアンケートについて

（木村）すでに時間をオーバーしていますけれども、もう少しだけお付き合いください。議事次第に戻っていただくと、フォーラム終了時のアンケートについて、という議題が残っています。今、土田先生がどうお考えなのか、ご紹介いただけますか。

（土田）2種類あるんですね。1つは、やはりどう変わったかということを見たいので、事前にやったアンケートと同じもの。全部でなくてもいいと思いますけれども、それを入れる。

もう1つは、毎回やっていたアンケートの総集編みたいな形。このフォーラムに関してどのような意見を持っているか。あるいは、フォーラムによって自分がどう変わったと自覚しているか。その辺りを入れる。

とりあえずは、その2つで構成しようかなと思っています。ただ、問題は、2つともやってしまうとかなり分量が増えるということ。まあ、フォーラム終了後ということですから、回答に1時間くらいかかっても付き合ってくれるかなとは思っていますけど。

（木村）フォーラム終了時に手渡しして、回答して土田先生に郵送するというようなスタイルにするのがいいかなとは思うのですけどね。

（土田）皆さんのご意見を聞きたいのは、思うことを自由に書いてくださいということ。を主体にしたほうがいいか。つまり、今毎回やっているアンケートと同じような形にしたほうがいいのか。

それとも、この人たちはこういうことを考えているよね、というようなことを抽出しておいて、そこに当てはまる人が何人くらいいるのかなということをやったほうがいいのか。

文章だけだと、結局、こんな意見もありました、とまとめるだけで、あまりそこから先にはいかない。数字にすると、外部にプレゼンするときに少しインパクトが出てきます。

(木村) 10人の参加者であっても、それは意味がありますか？

(土田) うーん。

(木村) 10人中5人とか。

(土田) まあ、そうなのですけどね。

(木村) 私も、アンケートのほうを考えると、ある程度具体的というか、典型的な意見はお示した上で、その上でさらに追加があればという自由回答との組み合わせ、がいいかなと思うのですね。いわゆる、その他項目とか、その理由はなんですかとか、そういうところは自由項目でしかありえないのですけど。典型的なものは選択式にしてもいいかなと思うのですけれども。

(土田) そうすると、少し研究会で時間を取っていただいて、サブファシリテーターの立場で入られた人、あるいはオブザーバーで入った人たちの目から見て、どうかなということをもとめる必要があります。

(木村) そうですね。もし可能であれば、第4回研究会のときに、たたき台みたいなものを用意していただくと助かりますけど。

(土田) 分かりました。では、それを用意しましょう。

(木村) 28日なのであまり時間がないのですが(笑)。

(土田) ただ、今のままでいくと、時間が足りなかったとか、サブファシリテーターの人たちがうざかったとか、すみません、言葉が悪くて、そんな言葉が目立つ回答として出てきているので、これをまとめるだけでは質問文にならない。ということで、ひよっとすると、先ほどの、次回のテーマを何にしたいですか、というようなところからも拾ってこないとならないかなとも思っているのです。

(木村) なるほど。フォーラムの記録は全部ウェブ公開されていますので。

(土田) それをまとめるのは、大変です。ワードマイニングでもやるか。

(木村) 分かりました。では、最終版のワードデータはお送りします。

まだ第2回までしかないので、これからどうなるか、というのもあるんですけど。では、次回のフォーラム研究会でたたき台を出してもらって、もむようにしましょうか。

(土田) 皆さんのほうからも、参加者の人たちのこういうことを知りたい、というご希望があれば、出していただけますか。

(木村) 参与観察している人たちは、こういうところに引っかかりがあるのではないかとか、何かあれば、それは各自でまとめてもらって、土田先生に情報提供しておいてもらっていいですか。

(土田) 例えば、自分のための質問でもいいと思います。サブファシリテーターという立場に入ったけれども、自分のやり方を向上させるために、参加者が何を考えていたか知りたいとかあれば、そういう質問を出してください。

(木村) それは、あらかじめあったほうがいいですか？ それとも研究会のときに少し時間を取ってやりますか？

(土田) それでもいいですし、事前に渡してくれれば、それは資料として持ってきますし。

(木村) では、方針としては、まずは土田先生のほうで作っていただくと。

第3回フォーラムもありますし、そのときも踏まえて、どのように思っているだろうかとか、知りたいことを、参与観察の立場とサブファシリテーターの立場からまとめてもらって。

フォーラムが終わった後に反省会みたいなものをやるので、そのときに出てきた意見をまた土田先生に聞いてもらいながら、それを踏まえて、28日(第4回研究会)に案を出してもらって、さらに追加したり、いろいろ議論しましょう。

(土田) 何にしても、これは参加者の意見を取れますので、活用するようにしましょう。どんな目的でも、一応は案を出して。で、これは聞かないほうがいくなればそれまでですけど、そうでなければ、あるものは利用しないと。

—— 6月28日に、こちらがこういうことを考えていたというのがまとめて伝わればいい

ですね？

(木村) いや、そうではなくて、フォーラムの後に、この前みたいに 1 時間くらいミーティングがありますよね。28 日は、それを受けて作ったアンケートの案を持って来る。22 日にフォーラムが終わった後に、また前回みたいに反省会をして、そのときにいろいろ意見が出てくるので、それを土田先生にも聞いてもらおう。

—— たぶん質問の意図は、22 日は 22 日であると思うのですが、28 日の前に意見をまとめて土田先生に渡すべきなのか、28 日に渡すべきなのかということだと思いますけど。

(木村) いや、だから 22 日のフォーラムの後に話し合うから、そこは土田先生にも来てもらいますよね？

(土田) 22 日は行きます。

—— 直にそのときにお伝えをすればいいですか？

(木村) そのときにいろいろお話をしますので、それはそのときにまとめておく。で、それを土田先生に渡して、それまでにも何か出てきたら追加だし、28 日に案が出てきたのに対して、それを見てディスカッションをすると。

—— では、元気ネットのサブファシリテーターのアンケート案を、22 日の夕方までに 1 回まとめておいたらどうですか。

—— それは無理ですよ。

(木村) ちょっと時間的に難しいと思うので。まずは案が出てきてから大丈夫だと思います。28 日の案を見て、それから追加の議論したほうが、手間が二重にならなくていいと思うのです。

だから、28 日に案が出てきて、そこでもんで、7 月 12 日でフィックスするというにしたいと思います。では、アンケートに関してはそういう方針でいきたいと思います。

4. その他

(木村) 最後に、その他の議題になります。

この研究会としては、6月28日に第4回、7月12日に第5回がセットされています。それぞれ、第4回、第5回フォーラムに向けての議論が行なわれることになります。

次に、シンポジウムの日程ですけれども、9月14日か16日と言っていましたけれども、武田ホールの関係で、16日にしたいと思いますけど、よろしいですか？

—— 時間は？

(木村) 時間はこれから決めます。まあ、午後だとは思いますが。午後丸々は長いですか？ そのくらいかかりますか？ 一応、午後丸々押さえておいてください。

PONPOの人は、10時くらいから丸々1日押さえておいてください。会場設営とかいろいろあると思うし、バイトも雇ったほうがいいかもしれない。

神崎さん、会場の予約は確定しておいてください。朝から晩まで取っておいてください。

時間としては、13時～16時半とか、フォーラムと同じ時間帯でやるというのもひとつの手かもしれないと思っています。土曜に取れなかったのが残念なのですが、祭日の月曜日で、まあ日曜にやるよりはいいかなと思います。

では、これで確定でよろしいですか？ そうしたら、ホームページにも日程だけは確定しましたということでお知らせを作っていきたいと思っています。では、確定ということをお願いします。

もうひとつは、POの岩田先生や外部評価委員の先生に、第4回、第5回、どちらでも構わないのですけれども、来ていただくように促しますか？

(土田) 来ていただくなら第5回でしょうね。第4回はどうなるか分かりませんし。

(木村) でも、第4回は面白いですよ。こんなことをやっているの？ みたいなの。

(土田) どちらを狙うかですけど。

—— やはり第5回のほうがいいと思います。

(木村) では、第5回でしょうか。お時間が合えば、口出しはできませんが、見ていただく分には構いませんということで、アナウンスしておこうかなと思います。では、そういうスタイルでいきたいと思っていますので、よろしくお願いします。まあ、全員がいらっしやれるとは思いませんけれども。外部評価委員の人には、旅費はこちらから出すということでやりたいと思います。そのくらいはフォローできると思うので。

ということで、今日の議題は以上ですけれども、何かありますか。それでは、第3回フォーラムが22日ですので、また11時に集合ということでもよろしくお願ひしたいと思いま

す。それでは今日はここまでにしたいと思います。どうもありがとうございました。

以上